

令和2年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業 1 頁

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 3

人財育成及び人材確保

1. 職員研修 4

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業 5

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協活動支援・運営支援 6
2. 地域づくりを支援する事業の充実 9
- ・ふれあいサロン事業
 - ・子どもの居場所
 - ・安心生活見守り支援事業
 - ・歳末たすけあい運動協力事業
 - ・災害支援ボランティア事業

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実 1 3
- ・いちほら総合相談・生活支援事業
2. 地域生活を支援する事業の充実 1 4
- ・日常生活支援事業
 - ・福祉サービス利用援助事業
 - ・成年後見制度専門相談
 - ・ホームケアサービス事業
3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実 1 7
- ・いちほらファミリー・サポート・センター事業
 - ・出産前後家事等サポート事業
 - ・生活支援体制整備事業
 - ・居宅介護支援事業
 - ・送迎ボランティアサービス事業
 - ・福祉カー貸出受託事業
 - ・生活福祉資金貸付事業
 - ・療養資金貸付事業
 - ・福祉資金貸付事業
 - ・応急法外援護事業

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化 2 4
 - ・地区行動計画の策定・推進
 - ・小域福祉ネットワーク連絡会議
 - ・地区社協連絡会

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成 2 6
 - ・人材育成事業
2. ボランティアセンター機能の強化 2 6
 - ・ボランティアセンター運営事業
3. 地域福祉推進体制の強化 3 1
 - ・民生委員活動推進事業
 - ・共催・後援等事業

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 3 2
 - ・老人福祉センター
 - ・姉崎保健福祉センター
 - ・三和保健福祉センター
 - ・南部保健福祉センター

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期 日	内 容
4 月 9 日	※ 新型コロナウイルス感染症（以下、「新型感染症」という。）の感染拡大防止のため中止
5 月 14 日	1. 令和2年度第1回理事会及び評議員会上程議案について（個別に説明）
6 月 11 日	1. 指定管理申請について
7 月 16 日	1. 令和2年度 第1回地区社協連絡会について 2. 法人後見実施要領（案）について
8 月 19 日	1. 市社協計画の評価について 2. 令和2年度第1回役員研修会について 3. 令和2年度第1回常任委員会及び令和2年度第2回理事会について
9 月 10 日	1. 市社協計画の評価について 2. 第6次地域福祉活動計画骨子案について 3. 第1回常任委員会について 4. 第2回地区社協連絡会について 5. 第1回いちばら小域福祉ネットワーク連絡会について
9 月 17 日 (臨時開催)	1. 指定管理申請について
10 月 8 日	1. 令和2年度第2回理事会上程議案について 2. アネッサ指定管理申請ヒアリングにおけるプレゼンテーションについて
11 月 12 日	1. 第3回地区社協連絡会について 2. 令和2年度災害ボランティア養成講座の開催について
12 月 12 日	1. 給与規程の改正について
1 月 9 日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画策定スケジュール（変更案）について 2. 今後の会議日程について
2 月 13 日	1. 緊急事態宣言下における今後の会議等対応について 2. 第6次市原市地域福祉活動計画素案について
3 月 12 日	1. 令和2年度第3回理事会及び第3回評議員会上程議案について

(2) 理事会及び評議員会

項 目	期 日	議 案 等
監査	5 月 26 日	令和元年度分監査
決議事項提案 (理事)	6 月	1. 令和元年度事業報告の承認について 2. 令和元年度決算の承認について 3. 定款の一部変更について 4. 役員評議員選出規則の一部改正について 5. 評議員候補者の選任について 6. 令和2年度第1回評議員会の開催について
決議事項提案 (追加) (理事)	6 月	1. 令和2年度第1回補正予算(案)について
決議事項提案 (評議員)	6 月	1. 令和元年度事業報告の承認について 2. 令和元年度決算の承認について 3. 令和2年度第1回補正予算(案)について 4. 定款の一部変更について 5. 役員の選任について
第2回理事会 (19名出席)	10 月 29 日	1. 令和2年度第2回補正予算(案)について 2. 令和2年度第2回評議員会の実施について
決議事項提案 (評議員)	10 月	1. 令和2年度第2回補正予算(案)について
第3回理事会 (18名出席)	3 月 19 日	1. 専決処分の承認を求めることについて 2. 令和2年度第3回補正予算(案)について 3. 共助の基盤づくり事業の新規受託について 4. 地域主体の子どもの見守り強化事業の新規受託について 5. 市原市成年後見支援センター運営事業の新規受託について 6. 事務局規程の一部改正について 7. 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 8. 会計規程の一部改正について 9. 令和3年度事業計画(案)について 10. 令和3年度予算(案)について 11. 令和2年度第3回評議員会開催について
決議事項提案 (評議員)	3 月	1. 令和2年度第3回補正予算(案)について 2. 共助の基盤づくり事業の新規受託について 3. 地域主体の子どもの見守り強化事業の新規受託について 4. 市原市成年後見支援センター運営事業の新規受託について 5. 令和3年度事業計画(案)について 6. 令和3年度予算(案)について

(3) 常任委員会

期 日	内 容
9 月 14 日	1. 市社協計画の評価について 2. 第6次市原市地域福祉活動計画骨子案について
3 月 19 日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画策定進捗状況について

(4) 評議員選任・解任委員会

期 日	内 容
7 月 27 日	1. 評議員の選任について

(5) 役員研修会

研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
Zoom の使い方及び設定方法	10 月 29 日	事務局	16 名

成 果	【正副会長会】 姉崎保健福祉センターの指定管理申請のため、定例開催に加えて臨時開催し、内容の検討を重ねた結果、次期の指定を獲得することができた。 【理事会】 Zoom の使い方をテーマに役員研修会を実施したことにより、Web による開催及び参加が可能となり、コロナ禍においても理事会で議論し、法人の意思決定をすることができた。このことにより時間や場所にとらわれることなく会議の開催及び参加しやすい環境を整備することができた。 【常任委員会】 第 6 次地域福祉活動計画策定に向け、前期計画の評価、振り返りなど、それぞれの立場の意見を踏まえ、次期計画の方針及び方向性について意見交換することができた。
課題・方向性	評議員会は定数が多く Zoom による開催も難しいことから、新たな Web 会議等の開催手法の研究、検討し、議論の場を確保する必要がある。

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の活動・事業への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

79,000部を年2回（町会世帯数）、98,350部を年2回（新聞折込み）発行した。

号 数	233 号	234 号	235 号	236 号
発行日	5 月 20 日	9 月 5 日	1 月 20 日	3 月 5 日
頁 数	4 頁	4 頁	4 頁	4 頁

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様役に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) SNSの運営

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を運営し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

Twitter（ツイッター）：https://twitter.com/ichihara_ytb

Facebook（フェイスブック）：<https://www.facebook.com/ichiharayotuba/>

成 果	事業の様子や活動風景を掲載した事業報告概要及び配布しやすい大きさのパンフレットを作成し、配布を行った。また、新たな広報素材や情報発信のため、広報委員会を月に 1 回定期開催し、検討を行い、動画コンテンツの導入に向け企画提案を行った。
課題・方向性	新たに動画コンテンツの作成を行い、様々な広報媒体を活用することで、誰にでもわかりやすく、効果的な情報伝達の方法を推進する必要がある。

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研 修 名	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
新規採用職員研修 (R2 年度採用職員)	社協組織及び事業等、職員に必要な知識の習得	5 月 1 日	事務局	1 名
総務管理グループ				
第 1 回	成年後見制度申立について	4 月 6 日	事務局	4 名
第 2 回	所轄庁監査への対応について	5 月 15 日	事務局	4 名
第 3 回	予算の構成について	10 月 30 日	事務局	5 名
第 4 回	成年後見制度申立について（応用編）	3 月 26 日	事務局	5 名
地域生活支援グループ【生活支援チーム】				
第 1 回	生活支援チーム、ボランティアセンターの業務の概要及び視点 生活福祉資金貸付制度の概要	8 月 24 日・31 日	事務局	8 名
第 2 回	災害ボランティアセンター設置訓練の円滑な運営に関する検討	12 月 22 日・ 1 月 5 日	事務局	8 名
第 3 回	地域福祉活動計画の取り組みの方向性について	3 月 22 日	事務局	2 名
地域生活支援グループ【地域支援チーム】				
第 1 回	CSW について	10 月 12 日	事務局	6 名
第 2 回	地域福祉活動計画について	2 月 19 日	事務局	6 名
地域生活支援グループ【西部エリア推進センター】				
第 1 回	ホームページ及び SNS の運用について	6 月 30 日	アネッサ	2 名
地域生活支援グループ【中部・南部エリア推進センター】				
第 1 回	日常生活支援事業の拡充強化に向けた勉強会	6 月 22 日	サンハート	2 名
第 2 回	災害ボランティアセンター（福祉避難所）の概要と職員の役割について	3 月 2 日	なのはな館	8 名

(2) 職場外研修

研 修 名	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	10月2日 10月31日 11月1日 12月12日 12月13日	ホテルグリーン タワー幕張 千葉県経営会館 幕張メッセ	1名
福祉避難所開設・運営マニュアル作成研修会	福祉避難所の必要性、概要、現場の状況や福祉避難所の開設・運営、マニュアルの作成手法について	11月30日	市原市役所第1庁舎	8名
ちば「働き方改革」公労使オンラインシンポジウム	With コロナ時代における働き方改革及び雇用の形態に関わらない公正な待遇について	12月8日	オンライン研修	1名
令和2年度福祉サービス苦情解決研修会	苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員の役割について理解を深め、事業者段階における苦情解決体制整備を進めるとともに、苦情解決に必要な知識やスキルを高め、福祉サービスの質の確保・向上を図る	11月16日 12月14日 12月18日 1月18日 2月12日	千葉市生涯学習センター 千葉県経営者会館	4名
令和2年度市長村長申立研修会	成年後見制度の概要と市町村長申立の実務について	1月12日～ 3月1日	オンライン研修	8名
成年後見利用促進体制整備セミナー	地域ネットワークと中核機関の役割について		オンライン研修	1名

成 果	新たに各所属での所属内研修を TL 層が講師として実施した。講師となる TL 層も所属職員の理解を得るため、内容や伝え方など工夫しながら実施するため、講師側も改めて再確認できる場ともなり、講師、受講職員両者の資質向上につながった。
課題・方向性	所属内研修が一部で実践されていないことや内容も不十分な部分もあるため、確実な研修実施と充実を図り、職員育成に努めていく。また、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、階層別研修等の市社協全体における招集研修を実施することができなかったが、Web による開催環境も整ったため、今後は Web も活用しながら職員育成体制の強化に努めていく。

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種 別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	2,370,057 円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000 円
定期預金	J Aバンク	10,000,000 円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000 円
定期預金	京葉銀行	10,000,000 円
定期預金	君津信用組合	10,000,000 円
積 立 合 計		52,370,057 円

② 債 券

種 別	銘 柄 名	金 額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合 計		200,000,000 円
社会福祉基金総額		252,370,057 円

(2) 基金取崩し財源の活用

① 地区社協拠点等整備事業

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	ちはら台	0 円	240,000 円	5	三 和	0 円	40,244 円
2	市 津	0 円	240,000 円	6	姉 崎	0 円	18,295 円
3	辰巳台	0 円	240,000 円	7	国分寺台	0 円	40,982 円
4	南 総	0 円	98,050 円	8	有 秋	0 円	18,296 円
拠点整備費合計：0 地区 0 円 (H25 度からの累計 6,853,050 円) 維持管理費合計：8 地区 935,867 円							

② 事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×11 地区=1,760,000 円	1 地区年額 160,000 円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	162,504 円 (13,420 円/月×12 回)	コーディネーター支援及び買い物代行として

社会福祉基金取崩し額合計	2,858,371 円
--------------	-------------

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協の活動支援・運営支援

小域福祉ネットワークや地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

(1) 小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和 63 年 6 月 26 日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市 津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 10 月 3 日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 27 日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 28 日	○

ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成 18 年 7 月 15 日	○
	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉 崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	○
有 秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三 和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
南 総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	内田小学校区	内田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○
加 茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五 井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	○
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	○
市 原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	○
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	○
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	○
合 計		44 団体（46 学校区）		実施 41 団体 （43 校区）

小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
R2 年度	205 日	2,670 名
R1 年度	371 日	5,571 名
増 減	△166 日	△2,901 名

成 果	新型コロナウイルスの影響により、大人数で集まっていた会議等の開催が減少したが、今後の活動に向け、適宜役員との打合せに地区担当職員が参加し、情報提供等の支援に努めたことで、これまで積み重ねてきたつながりを絶やさないよう、創意工夫しながら活動の展開を図った。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、地域に求められる役割と期待がこれまで以上に増す中、活動者の高齢化や固定化、後継者不足が課題となっていることを踏まえ、今後も活動に関する相談の受付や必要な情報提供など、地区担当を通じた継続的な支援に取り組むとともに、小域福祉ネットワークの安定的・持続的な組織運営の支援に努める。

(2) 地区社協事業一覧

		辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	ふれあいサロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連携・協働体制づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓事業	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○			○	○				
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○									
	相談支援事業	○	○	○	○		○	○	○		○	
	人材育成事業	○		○	○				○			
	災害支援ボランティア事業											

地区社協における各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
R2 年度	266 日	2,258 名
R1 年度	523 日	5,211 名
増 減	△257 日	△2,953 名

成 果	新型コロナウイルスの影響により、大人数で集まっていた会議等の開催が減少したが、今後の活動に向け、適宜役員との打合せに地区担当職員が参加し、情報提供等の支援に努めたことで、これまで積み重ねてきたつながりを絶やさないよう、創意工夫しながら活動の展開を図った。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、本市の中域福祉圏の推進役である地区社協の役割と期待は、益々大きくなっている。市社協の内部組織として、今後改訂される次期の地域福祉活動計画と方向性を共有しつつ、活動に関する相談の受付や必要な情報提供など、地区担当を通じた継続的な支援に取り組むとともに、地区社協の安定的・持続的な組織運営の支援に努める。

2. 地域づくりを支援する事業の充実

(1) ふれあいサロン事業の推進

① いきいきサロン

高齢者等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	3 会場	38 日	608 名	104 名
市 津	10 会場	32 日	505 名	177 名
国分寺台	3 会場	0 日	0 名	0 名
ちはら台	2 会場	0 日	0 名	0 名
姉 崎	2 会場	0 日	0 名	0 名
有 秋	2 会場	4 日	83 名	55 名
南 総	14 会場	12 日	294 名	99 名
加 茂	1 会場	0 日	0 名	0 名
五 井	4 会場	1 日	15 名	5 名
市 原	6 会場	41 日	504 名	181 名
合 計	47 会場	128 日	2,009 名	621 名
R1 年度	48 会場	450 日	11,730 名	3,289 名
増 減	△1 会場	△322 日	△9,721 名	△2,668 名

② はつらつサロン

心身障がい者（児）等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
国分寺台	1 会場	1 日	4 名	2 名
ちはら台	1 会場	1 日	7 名	8 名
合 計	2 会場	2 日	11 名	10 名
R1 年度	2 会場	13 日	202 名	112 名
増 減	—	△11 日	△191 名	△102 名

③ 子育てサロン

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	2 会場	9 日	58 名	77 名
市 津	1 会場	4 日	34 名	35 名
国分寺台	1 会場	6 日	43 名	15 名
ちはら台	3 会場	27 日	210 名	134 名
姉 崎	1 会場	0 日	0 名	0 名
有 秋	1 会場	0 日	0 名	0 名
三 和	1 会場	5 日	24 名	51 名
南 総	1 会場	1 日	8 名	12 名
五 井	1 会場	5 日	225 名	115 名

市 原	4 会場	31 日	564 名	131 名
合 計	16 会場	88 日	1,166 名	570 名
R1 年度	16 会場	266 日	4,818 名	1,653 名
増 減	—	△178 日	△3,652 名	△1,083 名

サロン事業 合 計	年 度	開催日数	延参加者数	延支援者数
	R2 年度	218 日	3,186 名	1,201 名
	R1 年度	729 日	16,750 名	5,054 名
	増 減	△511 日	△13,564 名	△3,853 名

成 果	新型コロナウイルスの影響による活動の縮小・自粛により、65 会場で予定していた事業の開催日数は減少となったが、事業全体として、延べ3,186 名参加(利用)いただき、コロナ禍で不安を抱えがちな子育て家庭や障がい者、高齢者の孤立防止及び集い・交流の場となった。また、辰巳台地区ではオンラインでの子育てサロンを開催し、コロナ禍における新たな事業展開に取り組んだ。
課題・方向性	現在は対象者を限定した事業となっていることから、地域共生社会づくりの視点を踏まえて、全ての地域住民を対象とした交流の場づくり(仮称)共生型サロンへの移行に向けた検討・見直しを図っていく。また、今後も、新型コロナウイルスによる影響が続くことも想定されることから、オンラインで開催した事例など、コロナ禍でもできるサロン活動について情報提供していく。

(2) 子どもの居場所

① 子ども(地域)食堂

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内 容
辰巳台	4 日	80 名	36 名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行い世代間交流を図った。(京葉教育文化センターとの共催) 【名称：トイトイ食堂】
国分寺台	5 日	28 名	32 名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】

子どもの居場所 合 計	年 度	開催日数	参加者数	支援者数
	R2 年度	9 日	108 名	68 名
	R1 年度	24 日	538 名	238 名
	増 減	△15 日	△430 名	△170 名

② 子ども(地域)食堂関係団体との意見交換会の開催

期 日	令和2年10月14日(水)
場 所	社協事務局
参 加 者	子ども(地域)食堂関係者 3 団体(7 名) 市役所職員(2 名) 市社協(5 名)
内 容	・(仮称)市原市こども食堂ネットワークの立ち上げについて

成 果	新型コロナウイルスの影響による活動の縮小・自粛により、開催日数は減少したが、地域の方が主導となって実施していただいている子ども（地域）食堂活動において、食事等を通じた子どもたちの健全育成や人とのふれあいを学ぶ機会が提供された。また、市と連携し、「子ども（地域）食堂」の実践者を集めた意見交換会を開催し、活動者との繋がりを持つことができたことで、活動の推進へ向け一歩前進した。
課題・方向性	これまで、住民の自発的な活動としての取り組まれていた子ども（地域）食堂活動を、子どもの居場所づくり活動の一環として、本会でも行政等と協議しながら活動の拡充に向けた新たな支援に努めていく。

（３）安心生活見守り支援事業の推進

① 安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地 区		見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数
辰巳台地区		77 名	84 名	971 回
市津地区		48 名	86 名	384 回
ちはら台地区		19 名	24 名	449 回
国分寺台地区		63 名	37 名	964 回
姉崎地区		192 名	216 名	3,154 回
有秋地区		21 名	35 名	183 回
三和地区		119 名	100 名	2,106 回
南総地区		168 名	189 名	2,916 回
加茂地区		89 名	116 名	1,058 回
五井地区		144 名	178 名	1,805 回
市原地区		252 名	262 名	6,025 回
年 度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R2 年 度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,192 名	1,327 名	20,015 回
R1 年 度	36 ネットワーク (38 小学校区)	1,189 名	1,372 名	19,171 回
増 減	5 ネットワーク	3 名	△45 名	844 回

成 果	ネットワーク役員と地区担当職員が打合せや会議等を重ねた結果、今年度新たに 5 校区（五井・京葉・菊間・八幡・市原）で実施することができた。また、感染防止の観点から、人を集めての活動が出来なかったことで、個別支援である安心生活見守り支援事業の充実を図るネットワークが多く、訪問回数の増加につながった。
課題・方向性	未実施校区に対し、事業の必要性和意義について関係者の理解を求めていく。また、見守り以外の支援を必要とする希望者に対しては、関係機関等と連携しながら、必要な支援活動に結び付けられる体制を構築する必要がある。

② 安心生活見守り支援事業安心訪問員交流会【※新型コロナウイルスの影響により中止】

安心生活見守り支援事業関係者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の見守り活動の充実に繋げることを目的に下記の通り計画した。

期 日	令和2年12月21日（月）
場 所	姉崎保健福祉センター（アネッサ）体育室
参 加 者	安心生活見守り支援事業安心訪問員（90名）
内 容	第1部 講 演 ・地域包括支援センター ふるさと ・地域包括支援センター 市津ちはら台 ・地域包括支援センター トータス ・市原市地域包括支援センター（基幹型） 「安心訪問員の“気づき”や“つなぐ”重要性」「意見交換会」 第2部 意見交換会 「見守り活動について語り合おう」「～コロナ禍における今後の見守り活動～」

課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により開催を中止したことから、令和3年度は早々に開催を予定したい。交流会を通じて、見守り支援活動を実施する中で見えてきた諸課題の分析や集約を行い、課題対応に向けた方策について行政と検討協議に努めていく必要がある。
--------	---

（4）福祉バザー事業・歳末たすけあい募金事業の推進

歳末たすけあい運動への協力として実施していた「福祉バザー」については、新型コロナウイルスの影響により中止とし、「歳末たすけあい募金」を実施した。

〈 歳末たすけあい募金 〉

地区名	募金額	前年比	備考
市 原	695,920 円	△116,690 円	
五 井	1,239,850 円	197,150 円	
加 茂	145,500 円	500 円	
国分寺台	386,101 円	△8,451 円	
姉 崎	464,414 円	—	福祉バザー中止のため、今年度のみ歳末募金を実施
三 和	371,000 円	—	
市 津	836,592 円	—	
辰 巳 台	558,823 円	—	
南 総	749,290 円	—	
有 秋	362,700 円	—	
ちはら台	25,576 円	—	
街頭募金	12,000 円	—	
個人・団体	38,504 円	△17,496 円	
合 計	5,886,270 円	—	

（5）歳末見舞金配布事業・地域福祉支援事業の推進

歳末たすけあい事業の一環として歳末にあたり、だれもが明るいお正月を迎えられるよう、ボーダーライン世帯に対して見舞金を配布した。また、歳末の時期に支援を必要とする方々が安心して暮らすことができる地域社会づくりの取り組みを推進するため、地域福祉活動を行う団体に助成を行った。

内 容	事業実績(R2 度)	R1 度	前年度比較
生活困窮世帯見舞金	2,216,000 円 (1 世帯あたり 8,000 円×277 世帯)	2,136,000 円	80,000 円
地域福祉支援事業	691,000 円 (20 団体)	1,484,000 円	△793,000 円
合 計	2,907,000 円	3,620,000 円	△713,000 円

成 果	歳末たすけあい運動の一環としての事業目的を整理し、金銭的な支援（歳末見舞金配布事業）から事業による支援（地域福祉支援事業）への移行により令和2年度をもって歳末見舞金配布事業を終了とし、令和3年度からの地域福祉支援事業の見直しを図った。また、地域福祉支援事業を20団体に実施していただき、例年比としては少ないが、コロナ禍で可能な個別支援を中心に実施した。
課題・方向性	今後、事業による支援である地域福祉支援事業に力を入れていくものとして拡充を図るとともに、その事業をきっかけに日常的な支援（生活支援）に繋がるような事業展開について提案していく必要がある。

（6）災害支援ボランティア事業の推進【※新型コロナウイルスの影響により中止】

災害にも強い地域づくりに向けて、地域特性に応じた防災・減災活動（の学習）について計画した。

課題・方向性	令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、大人数で集まる研修会などの開催ができなかったことで、事業を実施することができなかった。災害については、令和元年実際に発生した災害体験を教訓に、市社協と連携・協働し、平時からの災害対策の充実・強化に繋がるような事業展開が図れるよう提案していきたい。
--------	--

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実

（1）いちほら総合相談・生活支援事業

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年 度	生 計	職 業 生 業	教 育 青少年	障がい者 福 祉	冠 婚 葬 祭	療 養 健 康	生 活	その他	合 計
R2年度	1,955 件	3 件	113 件	7 件	0 件	6 件	198 件	135 件	2,417 件
R1年度	432 件	3 件	229 件	14 件	3 件	11 件	121 件	65 件	878 件
増 減	1,523 件	0 件	△116 件	△7 件	△3 件	△5 件	77 件	70 件	1,539 件

※各種貸付事業、ファミリー・サポート・センター事業、出産前後家事等サポート事業における相談も含む。

（2）各地区における相談事業【※一部、新型コロナウイルスの影響により中止】

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	6 日	0 名	12 名	日常生活上の悩みや困りごとに対し、地区住民が身近に相談できる場所を提供することを目的し、辰巳公民館会議室にて毎月第1日曜日13時～16時に開催。
市 津	98 日	51 名	196 名	毎週月・水曜日の10時～12時、拠点を活用した相談支援活動を実施。
国分寺台	53 日	75 名	76 名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	146 日	7 名	174 名	地区社協事務所に相談ブースを設け、週5回、10時～12時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月1回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉 崎	0 日	0 名	0 名	※新型コロナウイルスの影響により中止
有 秋	22 日	1 名	44 名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎週月曜日10時～12時に公民館にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。

三 和	5 日	9 名	51 名	子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南 総	26 日	40 名	34 名	ふれあいいきいきサロン開設時、南部保健福祉センターにおいては毎週土曜日 13 時～15 時に相談窓口（第 3 土曜日は障がい者専用窓口）を併設。
五 井	4 日	0 名	8 名	ふれあいいきいきサロン開設時に、五井公民館の一部屋において誰でも気軽に相談に来られる場として開設。

年 度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R2 年度	8 地区	360 日	143 名	595 名
R1 年度	9 地区	560 日	232 名	1,023 名
増 減	△1 地区	△200 日	△89 名	△428 名

成 果	法人本部では、新型コロナウイルスの影響に伴い経済的な課題を抱える世帯に対し、生活資金貸付（緊急小口資金等）の相談を切り口に、専門機関等と連携しながら生活の改善に向けた支援に努めた。また、地域の相談窓口（活動）では、住民に身近な存在として安心感を与えるとともに、困難ケースなどにおける専門機関への「つなぎ・橋渡し役」としての役割を担った。
課題・方向性	社会情勢や国、本市の施策動向を踏まえ、住民が抱える生活課題の解決に向けた法人本部や地域における相談窓口（活動）の役割・体制の見直しと再構築に努めていく。

2. 地域生活を支援する事業の充実

（1）日常生活支援事業の推進

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

① 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上の課題解決のために取り組む住民参加型在宅福祉サービス等の個別支援活動

地 区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	321 日	1,058 名	1,302 名	辰巳台地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
ちはら台	59 日	59 名	59 名	ちはら台地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
三 和	69 日	109 名	261 名	三和地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
有 秋	60 日	60 名	270 名	有秋地区内の一部町会にて、一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。【名称：くらしのささえあい】
市 津	91 日	91 名	273 名	市津地区に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津 まごの手】

年 度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R2 年度	5 地区	600 日	1,377 名	2,165 名
R1 年度	5 地区	815 日	1,917 名	2,836 名
増 減	—	△215 日	△540 名	△671 名

② 事業化・活性化推進サービス 【※一部、新型コロナウイルスの影響により中止】

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り掛かりとして部分的に支援する活動を行った。

地 区	開催日数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	23 日	227 名	23 名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月 2 回買い物ツアーを実施。
市 津	13 日	193 名	84 名	65 歳以上の一人暮らし高齢者、65 歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月 2 回買い物ツアーを実施。
有 秋	0 日	0 名	0 名	※新型コロナウイルスの影響により中止

年 度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R2 年度	2 地区	36 日	420 名	107 名
R1 年度	3 地区	61 日	851 名	195 名
増 減	△1 地区	△25 日	△431 名	△88 名

成 果	新型コロナウイルスの影響による活動の縮小・自粛となる中ではあったが、市内 5 地区で住民相互による支え合い・助け合いの活動が行われ、生活に課題を抱える住民の日常生活支援に繋がった。
課題・方向性	市で実施している「市原市住民主体訪問型サービス」への移行を図るとともに、今後は、「事業化・活性化サービス」における事業を拡充し、より日常生活支援に取り組みやすいような企画・提案をしていく必要がある。

(2) 市原市成年後見支援センター（準備室）事業

① 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

ア) 新規相談・契約件数

区 分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計	R1 年度	増減
新規相談件数	156 件	10 件	10 件	7 件	183 件	110 件	73 件
新規支援・訪問回数	467 件	15 件	40 件	17 件	539 件	306 件	233 件
新規契約件数	27 件	0 件	4 件	4 件	35 件	18 件	17 件

イ) 契約者訪問・相談支援件数

月	契約者数	計画に基づく訪問支援件数	緊急(臨時)訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R1 年度	増減
4	64 件	62 件	32 件	166 件	260 件	296 件	△36 件
5	63 件	56 件	37 件	217 件	310 件	261 件	49 件
6	64 件	70 件	48 件	242 件	360 件	260 件	100 件
7	65 件	68 件	56 件	195 件	319 件	284 件	35 件
8	68 件	71 件	42 件	181 件	294 件	250 件	44 件
9	69 件	69 件	52 件	178 件	299 件	208 件	91 件
10	74 件	81 件	71 件	242 件	394 件	245 件	149 件
11	78 件	76 件	70 件	246 件	392 件	237 件	155 件
12	80 件	88 件	78 件	268 件	434 件	262 件	81 件

1	80 件	85 件	62 件	247 件	394 件	217 件	177 件
2	76 件	86 件	51 件	220 件	357 件	203 件	154 件
3	80 件	89 件	75 件	258 件	422 件	228 件	194 件
合計	861 件	901 件	674 件	2,660 件	4,235 件	2,951 件	1,284 件

② 成年後見制度相談事業（市原市委託事業）

ア) 成年後見制度が市民の方にとってより身近な制度となるよう弁護士による専門相談を実施した。

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1 年度	増減
相談者数	1 名	1 名	1 名	0 名	1 名	4 名	3 名	3 名	2 名	0 名	2 名	2 名	20 名	32 名	△12 名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年 2 回） 時間：午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分】

月	6	10	計	R1 年度	増減
相談者数	1 名	2 名	3 名	4 名	△1 名

※ 1 相談者 1 名あたりの相談時間：60 分

※ 2 1 日の相談枠数：3 名

イ) 法律的な相談を必要としない一般相談を、職員による後見制度の概要や申立書類の書き方についての相談を実施した。

相談者数	電話相談	窓口相談	訪問相談	合 計	R1 年度	増減
	180 名	60 名	31 名	271 名	42 名	229 名

ウ) 制度利用の要否やケース検討について、弁護士と市関係機関で構成された「調整会議」を実施した。

期 日	内 容
6 月 25 日	① 市長申立受任調整（1 件）
12 月 24 日	① 市長申立ケース検討（1 件） ② 市長申立受任調整（1 件） ③ ケース検討（2 件）
2 月 2 日	① 法人後見受任調整（1 件） ② 市長申立ケース検討（1 件）

③法人後見事業

調整会議において制度利用が適正と承認された方の候補者として申立支援を行った。

区分	申立件数	受任件数
高齢者	1	0
精神障がい者	0	0
知的障がい者	0	0
その他	0	0
合 計	1	0

成 果	いちばら後見支援センター準備室を開設し、職員 2 名を増員し体制強化を図った。新型コロナウイルス対策を取りながら事業の運営を進め、福祉サービス利用援助事業の新規契約数は昨年度の倍の契約数となり、相談支援件数も大幅な増加となった。成年後見制度一般相談事業は、申立書作成支援を中心に問合せが増加し、訪問支援を含め迅速に対応し、制度利用促進を図った。法人後見受任に関しては、福祉サービス利用援助事業契約者の状態の変化により、本会が候補者として申立支援を令和 3 年 2 月に行い、次年度受任予定となる。
課題・方向性	令和 3 年度から「市原市成年後見支援センター」とし、制度利用促進に向け、広報・啓発業務、相談業務の拡充及び法人後見業務を推進していく。司法・福祉の専門職及び行政、福祉関係機関からなる調整会議を毎月 1 回開催するものとし、制度利用の適否、受任者調整、困難ケース検討を行い、適切な制度利用促進を図り、本人を含めたチーム支援、地域連携ネットワークの構築を推進する。

(4) ホームケアサービス事業

在宅高齢者や心身障がい者、母子・父子家庭等で公的な福祉サービスで対応できない家事援助等の支援を必要としている方を対象に、住民参加型の有償生活支援サービスを提供し、住民相互の支え合い・助け合い活動の増進を図った。

【活動状況】

	利用者数			活動協力会員数			活動日数			活動時間数		
	R2 度	R1 度	増減	R2 度	R1 度	増減	R2 度	R1 度	増減	R2 度	R1 度	増減
年間	0 名	1 名	△1 名	0 名	1 名	△1 名	0 日	1 日	△1 日	0 時間	2 時間	△2 時間
成 果	前年度に引き続き、福祉諸制度の改正に伴う地域共生社会づくりなどを踏まえ、住民相互の支え合い・助け合い活動の活性化に向け、本事業の推進体制の見直しを図ることとする。											
課題・方向性												

3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実

(1) 子育て支援活動の充実

① いちはらファミリー・サポート・センター事業（市受託事業）

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互（協力会員、利用会員）による援助活動を通じた子育て環境（仕事と育児の両立）を支援するため、いはらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年 度	相談件数（延数）	利用会員登録者数	協力会員登録者数	両方会員登録者数
R2 度	49 件	554 名	123 名	28 名
R1 度	117 件	532 名	122 名	28 名
増 減	△68 件	22 名	1 名	0 名

【活動状況】

（令和3年3月31日現在）

活動内容	月												R2 度	R1 度	増減
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
保育所・幼稚園の登園前の預かり	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2 件	24 件	△22 件
保育所・幼稚園の送り	0	0	4	4	0	8	4	14	0	0	4	4	42 件	69 件	△27 件
保育所・幼稚園の迎え	5	0	7	8	6	18	9	21	8	3	1	1	87 件	89 件	△2 件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	0	0	2	3	0	6	4	7	6	5	4	4	41 件	41 件	0 件
学童の放課後の預かり	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1 件	10 件	△9 件
放課後児童クラブの迎え	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6 件	46 件	△40 件
放課後児童クラブ終了後の預かり	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6 件	38 件	△32 件
子どもの病気等の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
子どもの習い事等の場合の援助	2	0	8	12	7	10	7	11	9	5	7	7	85 件	111 件	△26 件
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3 件	3 件	0 件
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	5 件	44 件	△39 件
保護者等の求職活動中の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	4 件	△4 件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3 件	13 件	△10 件
保護者等の外出の場合の援助	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	5 件	26 件	△21 件
保護者等の病気、その他休の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3 件	7 件	△4 件

その他	0	0	2	5	0	1	6	1	0	0	0	0	15件	33件	△18件
小学校登校前の預かり	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	7件	0件	7件
合計	9	0	25	39	16	46	42	59	25	16	18	16	311件	558件	△247件

成 果	新型コロナウイルスの影響で活動件数が著しく減少し、会員研修や交流会も2回中止になった。しかし、一般市民を対象とする市民大学講座や、協力会員養成講座は例年通り開催でき、新規協力会員の確保や、既存会員の活動フォローに努めた。
課題・方向性	地区により利用会員、協力会員数に偏りがある。行政担当課と連携した積極的な広報活動の展開と、市民大学・市民向け養成講座を通じた協力会員の増強に努めたい。

② 出産前後家事サポート事業（市受託事業）

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数（延数）	利用者数（実人数）	利用回数（延数）	利用時間（延時間）
R2 年度	35 件	46 名	157 回	310 時間
R1 年度	50 件	64 名	194 回	372 時間
増 減	△15 件	△18 名	△37 回	△62 時間

【活動状況】

（令和3年3月31日現在）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R2 度	R1 度	増減
活動内容																
家事 援 助	食事の準備・後片付け	10	13	19	15	9	9	7	16	15	10	10	15	148件	173件	△25件
	衣類の洗濯・補修	4	0	4	2	4	0	0	4	3	3	5	4	33件	88件	△55件
	居室等の掃除・整理整頓	5	3	5	9	7	1	0	1	8	3	6	12	60件	138件	△78件
	生活必需品の買い物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
	関係機関との連絡	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	2	5件	4件	1件
	その他必要な家事援助	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	5件	14件	△9件
	小 計	19	16	28	26	20	11	7	23	27	17	22	35	251件	417件	△166件
育 児 援 助	授乳	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1件	3件	△2件
	おむつ交換	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4件	9件	△5件
	沐浴介助	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3件	10件	△7件
	適切な育児環境の整備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	34件	△34件
	その他必要な育児援助等	0	0	0	0	1	0	3	4	1	0	3	3	15件	33件	△18件
	小 計	3	0	2	0	1	0	3	4	4	0	3	3	23件	89件	△66件
合 計		22	16	30	26	21	11	10	27	31	17	25	38	274件	506件	△232件

成 果	新型コロナウイルスの影響で相談件数は減少傾向にあるものの、市ネウボラセンター、子育て支援センター、市子ども未来部との連携により、利用者世帯に寄り添った支援を行うことが出来た。ヘルパー事業者とも情報共有を図り、担当ヘルパーが利用者世帯の詳細な状況まで把握することで、世帯毎のニーズに合った支援が実施され喜びや安心の声をいただいた。
課題・方向性	全事業所による同水準のサービス提供がなされるよう、事業者間の情報共有の場づくり等が必要。市担当課と連携し、事業者の意見交換会やマニュアル配布などを企画していきたい。

(2) 高齢者支援活動の充実

① 生活支援体制整備事業（市受託事業）

高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築に向け、その調整役を担う「第1層、第2層生活支援コーディネーター（SC）」と地区社協圏域の「第2層協議体」との連携・協働による「生活支援サービス等」の仕組みづくりに向けた検討に努めた。

＜第2層協議体・SC活動実績＞

	取り組み項目	辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
地域アセスメント	地域資源把握調査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域資源一覧表作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活課題・ニーズ把握		○	○		○		○		○		
地域で必要な仕組みづくり	見守りから生活支援 (新たな見守り体制の構築)	○			○		○		○	○	○	○
	地域資源とのマッチング (相談、便利帳作成等)	○			○		○		○	○	○	○
	住民互助の生活支援 (ゴミ出し、買い物、屋外支援等)		○	○				○		○		
	交流の場から生活支援 (居場所等での生活支援)					○				○		
担い手の育成	高齢者の活躍の場づくり (生活支援活動等の検討)		○	○				○				
	活動支援者の意識調査、 養成研修、説明会開催等		○	○								
事業全般の充実・強化	地域活動団体・専門機関・とのネットワークづくり (活動の協力体制構築)											
	地域ケア会議との連携 (地域課題・ニーズ共有)											
	フォローアップ研修等を通じた関係者の意識醸成											
	住民等(活動実践者)との意見交換会等を通じた意識醸成						○			○		○
その他の SC 活動実績												
○市原市地域支え合い推進協議会への参画(第1層 SC)適宜												
○千葉県生活支援コーディネーター研修参加(第1層、2層 SC)適宜												
○市原市生活支援体制整備事業調整会議の開催(市担当課、第1層、2層 SC)四半期ごと												
○職員連絡調整会議における連絡調整(第1層、2層 SC)毎月開催												

成 果	複数圏域で生活支援サービス等の具現化に向けたニーズ調査、担い手確保に向けた活動意識調査、意見交換会、買い物ツアーなどの試行を実施することができた。取り組みを見える化することで、協議体委員、SCの意識醸成と地域の関係団体・専門機関等との連携(ネットワーク)づくりなど事業全般の活性化に繋がった。
課題・方向性	感染症拡大防止の観点から、取り組みの実現に向けた検討や企画、試行に留まった。次年度は、早々にフォローアップ研修を開催し委員の意識醸成、役割・目指す目標・ビジョンの共有化を図り、取り組みの具現化を積極的に努めていきたい。

② 居宅介護支援事業（介護保険事業）

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R2 度利用者	104	104	109	110	102	104	106	106	107	106	108	101	1,267 名	105 名
R1 度利用者	81	90	87	85	88	88	87	96	92	99	95	103	1,091 名	90 名
増 減	23	14	22	25	14	16	19	10	15	7	13	△2	176 名	15 名

ア) 介護予防給付ケアマネジメント業務（受託事業）

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R2 度利用者	19	18	19	18	19	20	20	20	20	19	18	18	228 名	19 名
R1 度利用者	23	23	23	24	24	23	24	24	24	22	20	19	273 名	22 名
増 減	△4	△5	△4	△6	△5	△3	△4	△4	△4	△3	△2	△1	△45 名	△3 名

イ) 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

【認定調査状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R2 度利用者	3	1	0	0	0	0	0	4	4	0	2	1	15 名	1 名
R1 度利用者	7	7	5	6	3	4	3	4	3	5	3	3	53 名	4 名
増 減	△4	△6	△5	△6	△3	△4	△3	0	1	△5	△1	△2	△38 名	△3 名

成 果	新型コロナウイルスの影響により訪問の自粛が余儀なくされる中でも、感染症対策をしながら必要な支援を不足なく行うことができた。結果として地域・包括支援センターや医療関係団体との信頼関係が構築され、利用者件数を伸ばすことができた。
課題・方向性	ケアマネの人数を増やし、支援の希望者の受け入れをしやすくした。介護保険の制度改正もあり社会通念に沿った支援ができるように、学習し資質の向上に努めたい。

(3) 高齢者・障がい者支援活動の充実

① 送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行ない、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

ア) 実施状況

・利用者 187 世帯 202 名（令和3年3月31現在登録者）

・協力ボランティア 46 名（ ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R2 年度	R1 年度	増減
延利用件数	0	0	2	18	18	21	19	23	23	4	0	0	130 件	454 件	△324 件
目的別利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	公共機関利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	2 件	△2 件
	行事への参加	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2 件	5 件	△3 件
	通 院	0	0	2	18	18	21	19	23	23	4	0	128 件	586 件	△458 件
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	2 件	△2 件

イ) 送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	10月28日(水)
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参 加 者	一般市民 7名
内 容	説明:「送迎ボランティアサービス事業について」 講義:「安全運転の心得」 講師:市原警察署交通課 関根 健司氏 交流:送迎ボランティアの会との交流

ウ) 送迎ボランティア研修会【※新型コロナウイルスの影響により中止】

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として計画した。

期 日	1月21日(木) ※緊急事態宣言が発令された為、3月18日(木)に延期したものの、緊急事態宣言が延長され中止
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内 容	講話:「高齢者の接し方とコロナウイルスの正しい感染症予防」 講師:千葉県循環器病センター 感染管理認定看護師 大塚 モエミ氏 地域包括支援センターこくぶんじ台 センター長 宮崎 倫子氏 情報交換:協力者間の交流会

成 果	新型コロナウイルスにおける緊急事態宣言中は事業を休止したが、解除後、利用者及び協力者共に感染症対策を十分に行い、130件実施出来た。10月の養成講座では、新規協力者4名を確保できた。
課題・方向性	引き続き、新たな担い手の確保に向けた事業PRを強化するとともに、担い手の高齢化に伴う安全面に配慮した交流会等の企画を行う。併せて、車両4台の老朽化に伴う代替えに関する協議を行政と進めたい。

② 福祉カー貸出受託事業(市受託事業)

心身障がい者(児)、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

ア) 利用件数

項 目 \ 月	利用状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R2年度	R1年度	増減
心身障がい者(児)及びその家族	件数	1	1	4	4	1	1	0	2	2	1	1	1	19	40件	△21件
	日数	1	1	6	7	5	1	0	5	5	1	1	1	34	47日	△13日
高齢者及びその家族	件数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	5	4件	1件
	日数	0	0	0	0	8	0	0	0	0	1	0	4	13	13日	0日
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5件	△5件
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24日	△24日
社会福祉ボランティア	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0日	0日
合計	件数	6	3	3	3	4	3	5	1	6	3	4	8	24	49件	△25件
	日数	9	6	5	3	4	3	11	1	8	6	11	17	47	84日	△37日

イ) 利用内容

内 容 項 目	利用 状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合 計
心身障がい者（児）及びその家族	件数	0	0	16	1	2	19 件
	日数	0	0	23	4	7	34 日
高齢者及びその家族	件数	0	0	3	0	2	5 件
	日数	0	0	7	0	6	13 日
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0	0	0	0	0	0 件
	日数	0	0	0	0	0	0 日
社会福祉ボランティア	件数	0	0	0	0	0	0 件
	日数	0	0	0	0	0	0 日
合計	件数	0	0	19	1	4	24 件
	日数	0	0	30	4	13	47 日

成 果	市担当課と連携し、利用促進に向けてこまめに協議することが出来た。介護制度や介護タクシー等の充実により、年間利用件数自体は決して多くないが、新規利用者は増加してきている。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により、年間の利用件数も大きく減少した。介護保険適用外の利用者等サービスの需要が高まることが想定される中、年々利用割合の減少が見受けられるため、引き続き、市担当課と連携した広報活動に努め利用促進を図る。

(4) 生活困窮者支援活動の充実

① 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、高齢者世帯に対し、民生委員・児童委員をはじめ各関係機関が助言指導を行うことにより、当該世帯の経済的自立と更正意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めることを目的として実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
R 2 年度	総合支援資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	福祉費	9 件	8 件	8 件	7,550,000 円
	緊急小口資金	161 件	157 件	156 件	8,243,000 円
	教育支援資金	40 件	36 件	36 件	51,994,900 円
	不動産担保型生活資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	2 件	2 件	2 件	60,000 円
	小計	212 件	203 件	202 件	67,847,900 円
	新型コロナウイルス 特例貸付	3,281 件	2,794 件	2,231 件	640,595,000 円
	合計	3,493 件	2,997 件	2,433 件	708,442,900 円
R 1 年度	総合支援資金	1 件	1 件	1 件	330,000 円
	福祉費	36 件	12 件	12 件	6,920,000 円
	緊急小口資金	193 件	151 件	145 件	8,073,800 円
	教育支援資金	56 件	48 件	48 件	65,685,400 円
	不動産担保型生活資金	1 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	287 件	212 件	206 件	81,009,200 円
前年度比較増減		3,206 件	2,785 件	2,227 件	627,433,700 円

② 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付けを実施した。

【貸付状況】

年 度	相談件数	申 請		貸 付	
		件数	金 額	件数	金 額
R 2年度	4 件	3 件	430,000 円	3 件	430,000 円
R 1年度	6 件	5 件	1,164,000 円	5 件	1,164,000 円
増 減	0 件	△2 件	△734,000 円	△2 件	734,000 円

③ 福祉資金貸付事業（自主事業）

公的な福祉制度等で対応することができない、低所得世帯を主な対象者として、資金の貸付と必要な援助指導を与え、生活の安定と自立更正を図った。

年 度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
R 2年度	応急生活費	12 件	10 件	9 件	135,000 円
	合 計	12 件	10 件	9 件	135,000 円
R 1年度	応急生活費	16 件	8 件	8 件	120,000 円
	合 計	16 件	8 件	8 件	120,000 円
前年度比較増減		△4 件	2 件	1 件	15,000 円

④ 応急法外援助

低所得で、公的な福祉制度等で対応することができない方に対し、応急的な生活費として少額の資金を交付した。

R 2年度		R 1年度		前年度比較増減	
件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
178 件	480,740 円	154 件	362,680 円	24 件	118,060 円

成 果	新型コロナウイルスなどを理由とする経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や生活の安定、公的給付への繋ぎなど、必要な生活資金の援助を行うことで、世帯自立に向けた一助を担えた。また、複合的な課題を抱える世帯には、生活困窮者・行政などの専門機関や民生委員児童委員協議会と連携した援助に努めた。
課題・方向性	資金貸付が一時的(応急的)な援助に留まり、解決に至らず再相談される方もいることから初期相談から主訴を見極め、必要に応じ適切な専門機関等へつなぐための連携体制の強化に努める。

1. 地区行動計画の推進[地区社協単位]

(1) 地区行動計画推進委員会の開催

地域の特性や課題に応じた地域福祉活動の推進を図るため、平成 29 年度から平成 30 年度にかけて、中域福祉圏域の推進主体である地区社協が中心となり、全 11 地区で「地区行動計画」を策定した。

そして、この計画の実効性を高め、確実に活動・事業を実施していくため、計画の進行管理を行う組織として「地区行動計画推進委員会」を設置し、計画の進捗状況の確認及び評価、検討を行った。

地区名	名 称	設置日	R2 年度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成 31 年 1 月 22 日	※ 新型コロナウイルスの影響により中止
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成 30 年 12 月 12 日	1 回
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第 2 層協議体)	平成 31 年 3 月 14 日	3 回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第 2 層協議体)	平成 30 年 12 月 8 日	4 回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第 2 層協議体)	平成 30 年 11 月 19 日	1 回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成 31 年 2 月 19 日	※ 新型コロナウイルスの影響により中止
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総台地区第 2 層協議体)	平成 30 年 11 月 25 日	2 回
加茂地区	加茂地区行動計画推進委員会 (加茂地区社協理事会が機能を担う。)	平成 31 年 2 月 24 日	※ 新型コロナウイルスの影響により中止
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第 2 層協議体)	平成 30 年 4 月 20 日	2 回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成 30 年 9 月 30 日	※ 新型コロナウイルスの影響により中止
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第 2 層協議体)	平成 31 年 1 月 20 日	

※「第 2 層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。(姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区については「第 2 層協議体」とは異なる組織で開催)

成 果	新型コロナウイルスの影響により活動が縮小・自粛となる中、十分な会議を開催することはできなかったが、各地区において、役員レベルでの会議や打ち合わせなど行ったことで、今後活動計画を見直ししていくうえでの、目指していく方向性などの共通理解を図ることができた。
課題・方向性	今後改訂される新たな市原市地域福祉活動計画に基づき、地域共生社会づくりを踏まえた、地区行動計画の見直しを進め、推進を図る。

2. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化

(1) 小域福祉ネットワーク連絡会議の運営

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり企画した。

項 目	期 日	議 題
第1回いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議	9月29日	○「いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議」代表・副代表の選出について ○市原市地域共生社会推進プラン骨子について ○第6次市原市地域福祉活動計画骨子（案）について ○災害ボランティアセンターの取り組みについて ○実践発表 テーマ「災害時に備えて ～地域で今からできること～」 ・内田小学校区小域福祉ネットワーク ・明神小学校区小域福祉ネットワーク
第6次市原市地域福祉活動計画策定に伴う説明会	3月22日 3月24日 3月25日	・第6次市原市地域福祉活動計画策定進捗状況について

成 果	多くの方が関心をもつ「災害」をテーマとして、昨年の災害ボランティアセンターの取り組みや、災害の取り組みを行っている小域福祉ネットワークの実践発表をきくことで、小域福祉ネットワークの新たな役割や活動について考える機会となった。
課題・方向性	小域福祉圏における地域福祉活動を効果的に推進するために、共通する課題を抽出し、解決に向けた対応策を協議・検討する場となるよう運営していく。また、研修会の充実を図る。

(2) 地区社協連絡会の運営

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項 目	期 日	議 題
第1回地区社協連絡会	7月30日	令和2年度歳末たすけあい運動協力事業の取り扱い（案）について 歳末たすけあい運動の見直しについて
第2回地区社協連絡会	9月28日	市原市地域共生社会推進プラン骨子について 第6次市原市地域福祉活動計画（骨子案）について 歳末たすけあい運動の見直し（案）について
第3回地区社協連絡会	1月24日	意見交換会 ・地区社協における地域福祉基金の設置状況について ・地区社協事務局運営経費の取扱い状況について ・災害時における地区社協の役割について
第6次市原市地域福祉活動計画策定に伴う説明会	3月22日 3月24日 3月25日	・第6次市原市地域福祉活動計画策定進捗状況について ・地区社協における災害時の対応（案）について ・高齢者支援に関するアンケート協力について（市原市町会長連合会事務局）

成 果	市社協と一体となって取組みを進める事業、特に今年度は地域福祉計画及び地域福祉活動計画の改定に伴う地域からの意見集約の場として、市及び市社協と意見交換を行うことができた。また、後半は新型コロナウイルスの影響により、エリアに分かれて説明会を開催し、今後の事業展開に関しての共通理解、共通認識に繋がった。
課題・方向性	本市の中域福祉圏の推進役である地区社協の役割と期待は、益々大きくなっている。今後も市社協の内部組織として、市社協と一体となり、本市の地域福祉を推進していくための情報共有及び地域福祉活動の活性化に向けた検討の場とするともに、地区に共通する課題を抽出し、解決に向けた対応策を協議・検討する場となるよう運営していく。また、研修内容の充実を図る。

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成

(1) 人材育成事業の推進 【※一部、新型コロナウイルスの影響により中止】

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るための、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地 区	開催日数	参加者数	支援者数	内 容
辰巳台	3 日	68 名	34 名	地域福祉のための人材確保を目的とし地区内小中学校に福祉体験教室を実施。また、辰巳台地区の地域福祉に携わる方を対象にした「辰巳台地区地域福祉関係者合同研修会」を実施。
市 津	0 日	0 名	0 名	※新型コロナウイルスの影響により中止
国分寺台	1 日	12 名	2 名	「子どもの安全は地域で守る」をテーマとし、地区内の防犯意識を醸成していくために体験型安全指導者養成講座を実施した。
ちはら台	1 日	74 名	21 名	ちはら台医療と介護の集い、高齢者向けコンサートで地区社協活動について紹介し、地域福祉活動への理解促進及び協力者の募集を行った。
南 総	3 日	51 名	11 名	「見守り支援活動」（ふれあいいきいきサロン事業、安心生活見守り支援事業）の協力者間で認知症に対する共通理解を深めるとともに、協力者拡充に向けたスタッフを養成することを目的とし、認知症サポーター養成講座を実施。

年 度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R2 年度	4 地区	8 日	205 名	68 名
R1 年度	5 地区	17 日	1,470 名	276 名
増 減	△1 地区	△9 日	△1,265 名	△208 名

成 果	新型コロナウイルスの影響により活動が縮小・自粛となる中、4 地区で 68 名の協力を得て、205 名の参加者に対し養成講座等を実施し、地域福祉活動への理解を深めることで活動へのきっかけづくりとなった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題である。今後、事業参加者が活動に結びつくよう、地区社協と市社協とが連携・協働した人材の育成・確保のための事業展開をしていく必要がある。

2. ボランティアセンター機能の強化

(1) ボランティア活動に関する相談・コーディネート

① ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）方々、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相 談 内 容	R2 年度	R1 年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	26 件	43 件	△17 件
派遣依頼に関すること	24 件	108 件	△84 件
その他	35 件	96 件	△61 件
合 計	85 件	247 件	△162 件

② 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ			
	R2 年度	R1 年度	増減
活動回数	3, 222 回	9, 435 回	△6, 213 回
延参加人数	23, 111 名	54, 554 名	△31, 443 名

個人ボランティア			
	R2 年度	R1 年度	増減
延参加人数	1, 717 名	3, 223 名	△1, 506 名

災害ボランティア			
	R2 年度		増減
活動回数	40 回		40 回

依頼に対する活動状況			
	R2 年度	R1 年度	増減
件 数	0 件	100 件	△100 件
延参加人数	0 名	497 名	△497 名

成 果	新型コロナウイルスの影響により活動実績は減少傾向にあるが、その中でも出来る事を見つけ積極的に活動しているグループも見受けられ、活動者とセンターとで互いに情報共有が図れた。コロナ禍で受け入れ先も限定される中、活動希望者と活動先のコーディネートが僅かだが行うことが出来た。
課題・方向性	登録者の中には、福祉施設等で活動している団体・個人が多く、活動再開には時間がかかる見込みである。その間の意欲低下も懸念されるため、地区担当職員と連携し、身近で活動出来る場の拡充等図りたい。

(2) ボランティア活動に関する情報提供

社協ホームページやSNS、ボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）等で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成 果	ホームページやSNS(フェイスブック、ツイッター)を活用し、最新情報を提供出来た。
課題・方向性	ボランティア活動を広く市民にPRするため、まちさがいちとはらと連携した情報発信の強化、ホームページの他、SNS(フェイスブック、ツイッター)を積極的に活用し、新たな担い手の発掘や活動へのマッチングに繋げたい。

(3) ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

① ボランティア登録数

ボランティアグループ			個人ボランティア		災害ボランティア	
年度	登録団体数	登録者数	年度	登録者数	年度	登録者数
R2 年度	180 団体	4, 397 名	R2 年度	145 名	R2 年度	53 名
R1 年度	195 団体	4, 719 名	R1 年度	160 名		
増 減	△15 団体	△322 名	増 減	△15 名	増 減	53 名

② ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の繋がりや連携づくり機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事 業 名	期日	会 場	主 な 内 容
総 会 (新型コロナウイルスの影響により書面決議)	5 月 16 日	市原市姉崎保健福祉センター	令和元年度事業報告(案)について 令和元年度決算報告(案)及び監査報告について 令和2年度事業計画(案)について 令和2年度予算(案)について 役員の改選について

V連協会員交流会 (新型コロナウイルスの影響により中止)	5月29日	農業センター	会員相互の交流
役員・ES委員親睦会 (悪天候の為、中止)	7月6日	竹・いろりの里	会員相互の親睦
夏休み親子体験教室 (新型コロナウイルスの影響により中止)	8月22日	市原市姉崎保健福祉センター	“つくってあそぼう” レトロなおもちゃからサイエンスの世界へ！
講演会	10月15日	市原市市民会館	講演：1部「台風被害と新型コロナウイルスについて」 講師：ボランティアセンター職員 講演：2部「V連協の新体制について」 講師：ボランティア連絡協議会会長
バス研修会 (新型コロナウイルスの影響により中止)	2月24日		V連メンバーの交流を図るとともに、バス内 でお互いの活動の情報交換を実施
パソコン・ZOOM 教室 (緊急事態宣言期間中は中止)	年8回		情報の共有化
会報発行	年2回		「いちほらV連協だより」第29号（6月）・第30号（12月）広報活動
V連協運営事業			市原市V連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・その他打合せ

成 果	今年度初めて、「災害ボランティア養成講座」を実施し、被災者の生活復旧支援活動をスムーズに行う為の「災害ボランティア」53名が新たに登録された。ボランティア連絡協議会では、新型コロナウイルスの影響により今まで通りの事業は実施出来なかったが、役員会のZoom開催やZoom・パソコン教室を会員向けに開催することで、活動の停滞を防ぐとともに、ボランティア間の連携づくり活動の強化に繋がった。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により活動停滞や存続の危機に直面する団体も見受けられるため、活動相談機能の充実や情報提供を積極的に行い、元気な高齢者等が地域で活躍できるような機会や場の確保に向け本会地区担当職員と連携したコーディネート力の強化を図りたい。

（４）ボランティアの普及・交流

ボランティアの普及や団体間の相互交流を活性化し、ボランティア活動の裾野の拡大と協働関係の強化を図るため以下の講座等を開催した。

① 子育て支援者交流会 【※新型コロナウイルスの影響により中止】

子育て支援に携わっている支援者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋げることを目的に計画した。

期 日	1月29日（金）
場 所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
内 容	講演：児童虐待の現状と地域に求められること 講師：学校法人創志学園 東京経営短期大学こども教育学科 専任教授 小木曾 宏様

成 果	令和2年1月に市内で発生した幼児虐待死を受け、児童虐待の現状や地域での子育て支援の重要性について講演や事例を通し再認識するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋げることを目的に計画をした。
課題・方向性	市内で発生した幼児虐待死であり、子育て支援活動従事者の関心も高い為、令和3年度に改めて児童虐待をテーマとし実施する方向でいる。

(5) ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るため以下の講座等を開催した。

① 傾聴ボランティア養成講座【※新型コロナウイルスの影響により中止】

相手の心に寄り添って話を聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かして活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として計画した。
(協力：傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま)

期 日	6月28日(日)、7月5日(日)、12日(日) [全3回] ※対面での演習が多く新型コロナウイルス予防の観点から令和3年1月以降に延期としたが、その後も感染者数は減少せず、中止。一般市民向けでなく、傾聴ボランティアを対象としたフォローアップ講座を計画したが、感染者数減少傾向にない為、中止。
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内 容	講義及び演習 講 師：東京情報大学 総合情報学部 嘱託教授 田邊 昭雄氏 活 動 紹 介 発表者：傾聴の会ひだまり、傾聴の友やすらぎ、傾聴の会こだま

② 災害ボランティア養成講座

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害ボランティア」を養成することを目的として実施した。

期 日	11月29日(日)
場 所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参 加 者	一般市民 59名、関係者 13名
内 容	説明「昨年度の災害ボランティアセンターの振り返り」 講師：市原市社会福祉協議会職員 講義「市原市の災害リスク及び対策について」 講師：市原市危機管理課 地域防災マネージャー 主幹 石本 龍一氏 演習「災害時の状況をイメージしてみよう！(3・3・3ワークショップ)」 講師：(公社) SL 災害ボランティアネットワーク千葉県ネット 坂内 美佐子氏 (公社) SL 災害ボランティアネットワーク市原ネット 沼野 博氏 事務連絡「市原市災害ボランティア登録制度について」⇒53名事前登録

成 果	今年度初めて、「災害ボランティア養成講座」を実施し、被災者の生活復旧支援活動をスムーズに行うために災害ボランティアの養成を図り53名に登録いただいた。登録者には、一斉メールで災害に関する最新情報を提供出来た。
課題・方向性	地域課題、ニーズに応じた講座の企画の充実を図り、活動団体等と連携し継続的な活動を促すためのフォロー体制の確立に努めることとする。

(6) 福祉教育(ボランティア学習)の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育(ボランティア学習)の推進を図るため以下の講座を実施した。

① 出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年 度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R2年度	0 団体	0 団体	1 団体	1 団体
R1年度	16 団体	0 団体	4 団体	20 団体
増 減	△16 団体	0 団体	△3 団体	△19 団体

成 果	東京オリンピックの開催を控え企業や学校から問い合わせはあったが、新型コロナウイルスの影響により、実施まで結び付かなかった。タイミングよく実施出来た学校においては、3密を避け、クラス毎に実施することで、子どもたちへ“心のバリアフリー”を広めることが出来た。
課題・方向性	講座受講者が地域で活躍できる場に繋げるための企画調整に努めたい。また、対象者を若者から高齢者までに広げそれぞれの対象に応じたアプローチを行う。

(7) 災害ボランティア活動関連

災害時におけるボランティア活動が円滑に行われるよう、災害ボランティア活動の基盤整備・環境整備の促進を図った。

① 市原市災害ボランティア活動連絡調整会議

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期 日	1回目 7月28日(火) 2回目 9月9日(水) 3回目 11月18日(水) ※新型コロナウイルスの影響により1月20日に予定していた第4回目の会議は中止
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内 容	1回目 ①市原市災害ボランティア活動連絡調整会議設置要領の見直しについて ②令和2年度事業計画について ③構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①令和元年度災害対応の検証について ②令和2年度災害ボランティア養成講座について 3回目 ①災害ボランティアセンター運営マニュアルの見直し及び関係機関との関わりについて ②令和2年度災害ボランティア養成講座について ③令和2年度災害ボランティアセンター設置運営訓練について ④構成機関・団体の活動近況報告について

② 災害ボランティアセンター設置運営訓練 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を計画した。

期 日	2月7日(日)
場 所	市原市ちはら台コミュニティセンター
内 容	・第2次配備からの災害ボランティアセンター・サテライト災害ボランティアセンター 設置運営訓練 【協力団体】 市原市ボランティア連絡協議会、(公社)SL災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、(公社)SL災害ボランティアネットワーク市原ネット、市原市災害ボランティアネットワーク、千葉県災害対策コーディネーター連絡会、NPO法人ゆかいな仲間たち、日本赤十字社千葉県支部、千葉土建一般労働組合市原支部、市原市役所危機管理課、市原市役所地域包括ケア推進課

③ いちはら市民大学 (※市原市の主催事業)

防災コースにて「災害時における災害ボランティアセンターの役割と流れ」について講義を行った。

期 日	12月23日(水)
場 所	サンプラザ市原9階 研修室1・2
受 講 者	10名

成 果	令和元年度の災害の課題等を踏まえ、実際に即したマニュアルの見直しに取り組むとともに、連絡調整会議の関係機関・団体の見直しを図り、それぞれの役割を明確化することで、災害時の連携・協働体制の強化に繋がった。
課題・方向性	災害時における地区社協や市社協との連携・協働体制の構築を図るとともに、平常時から関係機関・団体、地域と連携・協働し、災害対策の充実・強化を図る。

3. 地域福祉推進体制の強化

(1) 民生委員・児童委員との連携強化

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期 日		事 業 名	人数	場 所
月	日			
4	6	市民児協第1回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	13	市民児協監査	5名	市社協
	21	市民児協第1回理事会 書面開催	13名	
	28	市民児協代議員会 書面開催	33名	
5	5～11	児童福祉週間	全委員	市内各地
	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
7	22	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協
8	28	市民児協第2回理事会	11名	市社協
9	18	市民児協第3回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	23	市民児協第1回地域福祉推進部会	20名	市民会館
		市民児協第1回主任児童委員部会	26名	
10	30	中堅民生委員児童委員研修会	99名	君津市市民文化ホール
11	20	市民児協第4回正副会長・部会長会議	5名	市社協
12	4	単位民児協会長研修会	7名	千葉市民会館
	11	新任民生委員児童委員研修会	5名	千葉県教育会館
	18	市民児協第2回地域福祉推進部会	21名	市社協
	21	第1回ちば民児協だより編集委員会	1名	県社会福祉センター
	22	市民児協第2回主任児童委員部会	23名	市社協
1	18	市民児協第5回正副会長・部会長会議	5名	市社協
2	15	市民児協第6回正副会長・部会長会議	5名	市社協

成 果	市民児協の事務局として、各種会議、部会、研修会等の運営支援に取り組み、民生委員活動の資質向上及び活性化を図った。また、新型コロナウイルスの影響により、定例会の開催も不安視される中ではあったが、地区担当職員を通じ、役員等との情報共有に努めたことで、コロナ禍における委員活動についての共通認識に繋がった。
課題・方向性	全国的になり手不足の傾向が続く中、市民児協の事務局として、地域住民からの相談支援に応じ、適切な機関への橋渡しや地域での見守りなどに取り組む民生委員・児童委員一人ひとりの活動上の負担感を軽減できるよう、委員同士の支え合いの体制づくりや、活動の充実に資する研修会の開催などに取り組む。

(2) 共催・後援等事業

社会福祉施設・団体との連携強化をはかり協働活動を促進するため、次のとおり共催、後援及び協賛を行った。

事業名	期 日	会 場	実施主体及び内容
第43回住宅デー	8月24日 9月27日	支部事務所他	<u>千葉土建一般労働組合市原市部</u> 地域住民を対象にオンラインによる工作教室、包丁研ぎを行い、建築に関する知識の普及と啓発を図るために実施した。
社会を明るくする運動「絵本の読み聞かせ」	10月1日 ～3月31日	市原市内小学校他	<u>市原地区保護司会</u> 社会を明るくする運動の一環として、「コウくんときいろいはね」の絵本を読み聞かせ、子どもたちの素直な心、思いやりを育むために実施した。
タイムカプセル郵便プロジェクト	2月～	市内各小中学校	<u>市原市青少年相談員連絡協議会</u> 市内公立小学校6年生、中学3年生が書いた、18歳の自分に向けたはがきを集め、それぞれが18歳になる年度に指定された住所に送付する。
令和2年度市原市老人クラブ会員作品展	11月2日 ～11月5日	市原市 国分寺公民館	<u>市原市老人クラブ連合会</u> 老人クラブ会員の作品を公開展示し、地域住民に老人のもつ経験と技術の周知を図り、また、趣味活動を通じて親睦を深め高齢者の生活をより豊かなものにすることを目的に実施した。
児童虐待から「命を守る」地域づくり講演会及びシンポジウム	11月21日	夢ホール	<u>特定非営利活動法人いちほら市民活動協議会</u> 児童虐待を防止し、子どもたちの健全育成を図るため、専門家の講演とパネルディスカッションを実施した。
市原刑務所誕生会 市原学園成人式	毎月	市原刑務所 市原学園	<u>市原地区更生保護女性会</u> 更生保護女性会の7支部が月別に誕生会を祝し、慰問を実施した。
重度障がい者もできる「バリアフリースポーツ」教室	毎月	三和コミュニティセンター他	<u>市原市中心身障害者福祉団体連絡協議会</u> 地域の障がい者・高齢者・子どもたちが共にスポーツを楽しみ、スポーツを通じて明るい仲間作りができることを目的に実施した。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	平成31年4月1日～令和6年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	平成3年4月1日～令和8年3月31日
姉崎保健福祉センター	平成28年4月1日～令和3年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、保健師による健康相談や血圧測定、市原警察署による交通安全指導の実施、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名		期 日
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)		毎月1回
各種講座	大正琴	第2・第4水曜日
	書道	第1・第3金曜日
	生け花	第2・第4木曜日
	アートフラワー	第1木曜日
	絵手紙	第1月曜日
	囲碁会	毎週火曜日
	ゲートボール	休止

① 月別利用状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人クラブ	団体数	0	0	0	5	2	5	4	5	1	0	0	0	22 団体
	人数	0	0	0	63	28	63	56	75	9	0	0	0	294 名
一般団体	団体数	0	0	24	25	20	24	25	21	19	3	0	9	170 団体
	人数	0	0	234	261	207	235	261	212	205	34	0	71	1,720 名
団体合計	団体数	0	0	24	30	22	29	29	26	20	3	0	9	192 団体
	人数	0	0	234	324	235	298	317	287	214	34	0	71	2,014 名
個人人数		0	36	1,079	1,038	989	1,033	1,154	1,123	1,130	253	0	380	8,215 名
総 合 計		0	36	1,313	1,362	1,224	1,331	1,471	1,410	1,344	287	0	451	10,229 名

【※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため、4月1日～5月27日及び1月9日～3月21日まで休館とした。】

② 利用状況前年度比較

区 分	団 体 数		前年度 比較増減	人 数		前年度 比較増減
	R2 年度	R1 年度		R2 年度	R1 年度	
老人クラブ	22 団体	123 団体	△101 団体	294 名	2,147 名	△1,853 名
一般団体	170 団体	217 団体	△47 団体	1,720 名	2,815 名	△1,095 名
個 人				8,215 名	17,735 名	△9,520 名
合 計	192 団体	340 団体	△148 団体	10,229 名	22,697 名	△ 12,468 名

成 果	利用者の協力を得ながら、ソーシャルディスタンスや消毒など、新型コロナウイルスの感染対策の徹底により、利用者の感染を防止できた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により、4ヶ月を超える閉館を余儀なくされたため、利用者数が激減したが、感染者の発生は防止できた。今後も、安心・安全に利用できる施設を目指し、感染予防の徹底を図っていききたい。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的にを行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
体育室	0	0	2,195	2,308	2,301	2,485	3,356	2,721	2,468	775	103	722	19,434	29,369	△ 9,935
ボランティアルーム	0	9	372	437	317	450	683	580	703	55	7	93	3,706	5,938	△ 2,232
実習室	0	13	168	327	177	332	509	391	316	45	0	39	2,317	4,002	△ 1,685
調理実習室	0	0	0	0	0	6	15	0	42	0	0	5	68	546	△ 478
研修室	0	0	305	852	636	744	946	960	826	449	312	1,156	7,186	12,741	△ 5,555
多目的ホール	0	0	596	824	485	705	883	830	674	221	175	253	5,646	9,067	△ 3,421
ゲートボール場	0	0	0	10	9	28	34	35	35	0	0	0	151	224	△ 73
相談室	0	0	4	10	24	22	38	135	115	5	11	78	442	1032	△ 590
合計	0	22	3,640	4,768	3,949	4,772	6,464	5,652	5,179	1,550	608	2,346	38,950	62,919	△ 23,969

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため、4月1日～5月27日（体育室・調理実習室は5月31日まで）及び1月9日～3月21日まで、休館とした。 】

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
ニコニコキッズ	5月18日 7月27日 9月14日 11月16日 12月7日 1月18日 3月15日	ボランティアによる手作り遊具を活用し、開放された遊びの場を提供することで、親子が交流を図り情報交換を行う等の子育ての支援を行うことを目的として計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
世代間交流事業 卓球教室	8月1日 8月2日	高齢者の卓球グループの方々を講師として小学生を対象とした卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。（児童館と共催）	59名
バリアフリー スポーツ教室	6月28日 7月26日 8月23日	障がい児（者）を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験することで、障がい者への理解を深め交流の機会を作るために実施した。 【 ※ 6月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	77名
昔あそび	8月7日 10月31日 1月16日 3月6日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。（児童館と共催） 協力：シルバー友の会 【 ※ 8月、1月、3月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	24名
アネッサ発 クリーン大作戦	11月14日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館と共催）	126名
初めての手話	10月10日～ 12月12日 (毎週土曜日 全10回)	市民に対し、障がい者に対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者のための手話入門講座を実施した。	75名

チャレンジ 夏休みの課題	8月6日 8月7日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館及び青少年会館と共催）	28名
グランドゴルフ大会	9月13日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として計画した。（社会体育振興会と共催） 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
普通救命講習	7月14日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	3名
施設内美化活動	4月18日 5月16日 6月13日 9月5日 11月14日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。 【※ 4月、5月、6月は新型コロナウイルスの影響により中止】	39名
自主防災講習会	7月4日 7月5日 7月11日 7月12日	防災についての知識を高め、地域防災の在り方や取り組みについて学ぶことを目的として計画した。 （NPO法人ゆかいな仲間たちと共催） 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
ボランティア 活動紹介	9月1日 ～9月30日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	12団体
サークル活動紹介	10月1日 ～10月31日	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがいのある活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	23団体
レコード交流会	4月～3月 全12回 （毎月）	レコード鑑賞（茶話会）を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。 【※ 4月～6月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	114名
おもいっきり体育室	6月6日 8月7日 11月28日 3月6日	【参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。（児童館と共催） 【※ 6月、3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	53名

成 果	児童館や地域の各種団体等との共催で事業を行うことで、内容の充実や参加者数の拡充を図ることができた。また、保健福祉センターの特性を活かしたさまざまな事業を行うことで、高齢者、児童、障がいのある方などが相互理解を深め、交流を図ることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響による休館があったため、昨年度と比較して利用者は大幅に減少している。感染拡大防止のため、事業実施の際は参加者の安全を確保するとともに、保健福祉センター設置目的の一つである「地域とのつながり」をより感じてもらえるような事業企画に努めていきたい。また、広報誌やホームページ、SNSを活用し、積極的な広報活動を行って活動のPRを進めていく。

② 老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
大広間	団体	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	17	467	△ 450
	個人	0	12	638	755	713	731	807	765	712	81	0	202	5,416	9,624	△ 4,208
和室		0	0	11	42	14	26	41	30	43	0	0	45	252	816	△ 564
男性浴室		0	25	438	512	447	434	533	553	477	64	0	142	3,625	7,644	△ 4,019
女性浴室		0	4	107	140	101	105	183	208	213	26	0	35	1,122	3,410	△ 2,288
合計		0	41	1,194	1,466	1,275	1,296	1,564	1,556	1,445	171	0	424	10,432	21,961	△ 11,529

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。 】

イ) 年間事業実施状況

【健康講座】講座を通じて介護予防に取り組み、健康で生きがいのある生活へと繋げることを目的に実施した。

事業名	期 日	内 容	参加者
ヨガ教室	7月～9月 (全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした初心者向けのヨガ教室。 講師：鈴木 なぎさ氏	121名
健康吹矢教室	11月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康吹矢教室。 講師：田中 博之氏	37名
はじめての 太極拳教室	1月～3月 (全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした初心者向けの太極拳教室を計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
60歳からの 健康体操教室	9月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康体操。 講師：有山 貴子氏	68名
ヨガ教室中級	11月～12月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした経験者向けのヨガ教室。 講師：鈴木 なぎさ氏	36名

【教養講座】創作活動を通じて教養を高め、参加者相互の交流を図りながら、生きがいのある生活へと繋げることを目的に実施した。

手芸教室	7月 (全2回)	ちりめんてしるしをを作る。 講師：小澤 よし子氏	19名
一文字書を楽しむ 書道教室	7月～8月 (全4回)	色紙に好きな一字を書く。 講師：大野 蘭秀氏	32名
絵手紙教室	11月～1月 (全9回)	絵手紙の基本について学んだ。 講師：東 洋子氏	84名
そば打ち教室	12月 (全1回)	市原産のそば粉を利用したそば打ち。 講師：斉藤 忠夫氏	7名
折り紙教室	7月 (全2回)	広告紙を使用して小箱作り。 講師：福田 進一氏	19名
メンズキッチン	2月 (全2回)	男性を対象とした料理教室を計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
中国水墨画教室	10月 (全4回)	初心者向けの中国水墨画教室。 講師：陳 珂氏	26名
ラベンダーポプリと バンドル作り教室	6月 (全2回)	旬のラベンダーを使ってポプリとバンドルを製作を計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—

成 果	新型コロナウイルスの影響により中止とした事業もあったが、十分な対策を行うことで、事故なく安全に多くの参加者を得ることができた。特に健康講座はコロナ禍の中で、閉じこもりがちな高齢者の運動不足の解消に好評であり、今後も参加したいとの声があった。また、市の広報やホームページなど様々な媒体を活用し広く市民に呼びかけることで、事業目的である高齢者の交流促進や健康寿命を延ばすためのきっかけ作りに寄与することができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により、休館が多く年間利用者が昨年度より大幅に減少している。開館時も、利用者の減少率は増えてきており新型コロナウイルスの影響が多感に感じられる。感染予防を徹底していることをアピールしていくとともに、今後も継続して利用促進のための広報活動を積極的に行う必要がある。事業においてはアンケートの結果、健康講座を増やしてほしいとの声が多数あったため、内容を調整し講座の充実を図る。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
児 童	0	0	104	227	316	294	306	275	301	11	0	53	1,887	6,817	△ 4,930
保護者	0	0	87	168	244	249	313	368	284	15	0	43	1,771	5,420	△ 3,649
合 計	0	0	191	395	560	543	619	643	585	26	0	96	3,658	12,237	△ 8,579

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。 】

イ) 子育て支援事業(ボヨボヨクラブ・のびのびクラブ・ひよこクラブ)「毎週火・木・金曜日」・ふたごっちクラブ「毎月第1水曜日」(8月は学童夏休みの為ボヨボヨクラブ、ふたごっちクラブのみ実施)

幼児を持つ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図るために実施した。毎月第1水曜日は、多胎児を持つ保護者を対象に「ふたごっちクラブ」として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
ボヨボヨクラブ				68	47	123	89	85	57	0		0	469	2,172	△ 1,703
のびのびクラブ				61	32	77	87	68	44	8		55	432	1,353	△ 921
ひよこクラブ				56	28	71	57	76	48	6		0	342	1,428	△ 1,086
ふたごっちクラブ						8	4	12	0	5		0	29	147	△ 118
合 計	0	0	0	185	107	279	237	241	149	19	0	55	1,272	5,100	△ 3,828

ウ) 子育て支援事業 「毎週水曜日」(8月は学童夏休みの為中止)

ボランティアによる絵本の読み聞かせやリズム遊び等を取り入れた子育て支援を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
英語で遊ぼう						36	22	57				0	115	320	△ 205
ママといっしょ						22	17	31				0	70	315	△ 245
合 計	0	0	0	0	0	58	39	88	0	0	0	0	185	676	△ 491

エ) 企画事業「毎週土・日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させるために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
参加者				25	45	19	41	26	77	0		0	233	1,574	△ 1,341

オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
登録者			2	3	3	3	8	3	0	0		3	25	74	△ 49
貸出(冊)			112	204	230	258	224	211	49	11		19	1,318	3,347	△ 2,029

カ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
アネッサ発 クリーン大作戦	11月14日	施設利用者と地域住民とで行う地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	126名
中高生による 子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなど。	59名
母親クラブ 「乳幼児の為の救急法」	10月22日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	18名
アネッサ探検隊	7月4日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
おもいっきり体育室	6月6日 8月7日 11月28日 3月6日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(地域福祉センターと共催) 【※ 6月、3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	53名
おもしろ実験教室	8月7日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。 講師：市原袖ヶ浦少年少女発明クラブ	8名
昔あそび	5月2日 8月7日 10月31日 1月16日 3月6日	ボランティアとの交流を図りながら、昔から伝承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。 (地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会 【※ 8月、5月、1月、3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	24名
子育てクラブ 合同クリスマス会	12月16日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子どもの成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	110名
親子料理教室	12月5日	児童が自らの手で作る楽しさを体験するとともに、ふれあいを通して親子で活動する喜びを味わい、情操を豊かにすることを目的として実施した。	16名
母親クラブ 「食育座談会」	9月3日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市保健センター栄養士	26名
世代間交流事業 アネッサキッズ 卓球教室	8月1日 8月2日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	59名
ジャグリング教室	10月4日 10月11日	創作活動であるジャグリングを体験するとともに、交流を図る場としてジャグリング教室を実施した。 協力：市原 Jug Jug	35名
こども トールペイント教室	11月15日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	8名
母親クラブ「ママのリ フレッシュ講座」	2月19日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「ケーキ作り」を実施した。	6名
子育てクラブ 合同大運動会	10月14日	発育時期に分かれ実施している事業を合同にしてイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ね、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	54名
子育て座談会	6月11日 11月27日 3月25日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 【※ 6月、3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	19名

チャレンジ 夏休みの課題	8月6日 8月7日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。（地域福祉センター及び青少年会館と共催）	28名
キッズ ボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	75名

成 果	乳幼児とその保護者向けの事業だけでなく、小中高生や地域のボランティアの協力など、幅広い年齢層の方たちとの交流を持つことで児童の健全育成を図ることができた。また、小中学生が読み聞かせ等を行うなど、ボランティア意識の向上と育成に努めた。今年度は新型コロナウイルスの影響により活動が制限される中、より保護者により添うことができ、心のケアを図ることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により参加人数の制限をしたことにより、利用者は減少している。事業においても人数制限を設けたが、参加者からはゆったりした時間を過ごすことができたとの声が聞かれた。今後、通常開催になった場合においても同様の声が聞こえるよう、創意工夫をしていく必要がある。また、利用者アンケート等を活用し、ニーズに合った事業を検討していくとともに、若い世代へのPR活動としてホームページやフェイスブック、ツイッターなどのSNSを活用していく。

(3) 三和保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	R1年度	増減
ボランティアルーム	0	0	216	261	153	232	288	227	284	34	0	48	1,743	4,329	△ 2,586
研 修 室	0	0	129	157	73	107	163	128	138	39	0	79	1,013	3,213	△ 2,200
多目的ホール	0	5	408	496	402	486	549	476	516	71	0	153	3,562	7,788	△ 4,226
創作活動室	0	0	59	110	73	106	127	185	63	4	0	10	737	1,447	△ 710
合 計	0	5	812	1,024	701	931	1,127	1,016	1,001	148	0	290	7,055	16,777	△ 9,722

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。 】

イ) 年間事業実施状況

事 業 名	期 日	内 容	参加者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・第4土曜日)	障がい児と未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の運営により実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により、おもちゃの貸出のみとした。 【 ※ 4月～5月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	186名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第2日曜日)	障がい児者を対象としたボランティアによる絵画・工作教室を実施した。 講師：米元志慶子氏 【 ※ 4月～5月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	29名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・第3木曜日)	発達の気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターとボランティアの協力を得て実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により、人数制限をおこなった。 【 ※ 4月～5月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	261名
自由空間	4月～3月 (毎月第2木曜日)	ひきこもりや不登校、社会に出ることが困難な方々を対象に相談や、談話することにより社会へ出ていくための支援を行った。 【 ※ 4月～5月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	26名

子育てサロン さんわぼかぼか	4月3月 (毎月第4月曜日 8月、1月を除く 10回)	地区社会福祉協議会と連携、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により、人数制限をおこなった。 【※ 4月～5月、1月～3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	63名
世代間交流	5月27日 10月21日	センター利用する高齢者と三和保育所の児童がものづくりや運動を通じて世代を超えた交流を図り世代を超えて交流することの喜びを感じてもらうことを目的として計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
歌声喫茶	9月16日 12月4日 3月24日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、サンハート利用団体に対して活動の披露の場を提供した。なお、新型コロナウイルスの影響により、人数制限をおこなった。	78名
さんさん クリーン大作戦	11月22日	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことにより、交流を図りながら地域の環境美化を实践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、サンハート周辺のごみ拾いを実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限をおこなった。	50名
サンハート まつり	1月24日	地域住民の交流を図るとともに、サンハートの周知、利用活性化を図ることを目的として、利用サークルの作品展示会、舞台での発表会などを計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
市民講座	10月31日 11月28日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。また、補完講座として「オレリンミーティング」も新たに実施した。	10名 6名

成 果	新型コロナウイルスの影響により計画どおりの事業が実施できなかったが、地域福祉関係団体や地域ボランティア、市原市発達支援センター等と連携・協力を得て事業を進めたことで地域との連携の強化につながった。また、地域住民をはじめ高齢者や障がいのある方、子育て世代などの幅広い層に交流の場や支援の場を提供することができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により休館や利用制限が行われ、利用者が大幅に減少した。しかしながら、施設利用の希望が寄せられている一方感染を危惧する利用者も多いことから、新型コロナウイルス感染症感染予防対策を徹底し、安全に利用できる施設環境を整えることで利用促進につなげて行く。

② 老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	R1年度	増減
大 広 間 (団 体)	0	0	0	0	0	29	0	0	25	0	0	24	78	275	△ 197
大 広 間 (個 人)	0	5	226	275	333	291	288	269	266	43	0	86	2,082	4,072	△ 1,990
和 室	0	0	22	39	36	15	22	31	24	0	0	14	203	598	△ 395
男 性 浴 室	0	28	582	720	696	653	812	688	718	108	0	183	5,188	8,291	△ 3,103
女 性 浴 室	0	15	234	257	232	246	282	282	291	46	0	60	1,945	4,150	△ 2,205
生 活 相 談 室	0	0	4	47	37	38	38	34	26	0	0	23	247	450	△ 203
合 計	0	48	1,068	1,338	1,334	1,272	1,442	1,304	1,350	197	0	390	9,743	17,836	△ 8,093

【※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。】

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康体操教室	10月～12月 (全8回)	高齢者の健康づくりその習慣化を目的として、健康体操教室を実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：大前陽子氏	69名
楽しく俳句教室	10月 (全4回)	俳句を通じて趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：木村孝一氏	37名
気功教室	8月～3月 (全7回)	高齢者の健康づくりその習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：上久保治子 【※3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	36名
ヨガ教室	10月～12月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：古川佳子氏	68名
絵手紙教室	7月～11月 (全4回)	絵手紙作りを通じて趣味活動と交流の場を提供することを目的に実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：向井艶子氏	31名
いっどこ 脳トレ教室	9月30日 (1回)	脳トレを通じて介護予防のための健康づくりの知識の習得を図ることを目的に実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：豊留富美氏	4名
笑う健康法教室		ラフターヨガは新型コロナウイルス感染防止の観点から不向きな事業であるため中止とし、気功教室に振替をした。	—
家庭でできる 茶の湯教室	3月 (全4回)	茶の湯体験を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし計画した。 講師：白川ますみ氏 【※新型コロナウイルスの影響により中止】	—
一文字書教室	11月 (全4回)	書道を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により、人数制限を行った。 講師：大野文子氏	28名
シニア向け 腰痛対策教室	12月 (全4回)	腰痛体操を通じて健康維持とその習慣化を図り、交流の場を提供することを目的として実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：梅津行二	33名
健康太極拳教室	11月 (全4回)	健康太極拳を通じて健康維持とその習慣化を図り、交流の場を提供することを目的として実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により人数制限を行った。 講師：等々力啓子	30名

成 果	コロナ禍の中で自主事業の一部が実施できなかったが、高齢者が健やかな日常生活をおくることにつながる運動機能維持や腰痛対策を目的とした教室が特に講評で、継続的な開催の希望が多く寄せられた。教室参加者の中から新たに当センターを利用しサークル立ち上げ健康維持を目的とした活動を行う方々も生まれるなど、健康意識の高揚が図れた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響による休館や利用制限が行われ、利用者が大幅に減少した。しかしながら、健康維持の意識の高い高齢者の利用者も多いことから、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、安全に利用できる施設環境を整えるとともに、高齢者の健康意識に即した講座を増やすことで利用促進につなげて行く。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1年度	増減
児 童	0	0	99	166	236	149	170	155	132	27	0	40	1,174	6,177	△ 5,003
保護者	0	0	86	161	194	154	184	164	149	27	0	38	1,157	4,462	△ 3,305
計	0	0	185	327	430	303	354	319	281	54	0	78	2,331	10,639	△ 8,308

【※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。】

イ) 子育て支援事業

下記のa)、b)の事業は新型コロナウイルス感染防止対策として合同くらぶ形式で実施した。

a) さんさんくらぶ・きらきらくらぶ「毎週火・金曜日」

乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

b) よちよちくらぶ「毎週水曜日」

11ヶ月から1歳6ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1年度	増減
参加者(さんさん)	中止	中止	中止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	626	△ 626
参加者(きらきら)	中止	中止	中止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	646	△ 646
参加者(よちよち)	中止	中止	中止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	338	△ 338
参加者(あかちゃん)	中止	中止	中止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	287	△ 287
参加者(合同)	—	—	—	86	73	30	40	49	37	16	中止	中止	331	0	331
計	0	0	0	86	73	30	40	49	37	16	0	0	331	1,897	△ 1,566

※「さんさん・きらきら・よちよち・あかちゃん」合同くらぶとして、8月以降あかちゃんくらぶは単独で実施した。

c) あかちゃんくらぶ「毎週木曜日」

3ヶ月から10ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1年度	増減
参加者	中止	中止	中止	—	20	24	37	56	36	10	中止	中止	183	287	△ 104

ウ) クラフト&プレイ「第1～3及び第5日曜日」・みんなあそぼう「毎週第4日曜日」

【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させるために事業を計画した。

エ) 児童館ボランティアクラブ

児童を対象に、ボランティアの育成を目的として、児童館ボランティアクラブに登録してもらい、イベントにおいて読み聞かせを行った。

期 日	内 容	参加者
8月11、19日	子育て支援イベントにおいて、紙芝居の読み聞かせ	13名
3月	高齢者施設「三和の里」においてパネルシアター及び大型絵本の発表を計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—

オ) 放課後クラブ「毎週火～金曜日（学校の長期休暇期間を除く）」【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】

小学生の放課後の居場所づくりを目的とした工作教室等を計画した。

カ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R1年度	増減
新規登録者	0	0	6	8	5	2	6	7	0	1	0	4	39	81	△ 42
貸出(冊)	0	0	106	149	125	146	218	168	119	12	0	43	1086	1,667	△ 581

キ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
グリーンガーデン	8月19日	花の種まき及び水やり(児童館脇のウッドデッキに朝顔のグリーンカーテンを設置)	2名
ベビーマッサージ教室	10月1日・15日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師：嶋津一恵氏	18名
人形劇	12月8日 2月5日	「人形劇団とんとん」による人形劇上演 「グループともだち」による人形劇上演を計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	6名 一
夏休み子どもアトリエ 小物教室	8月6日(計画)	ペットボトルキャップでアクセサリを作ることを計画した。 講師：児童厚生員 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	一
夏休み子ども 布ぞうり教室	8月7日	タオルで布ぞうりを作る 講師：穴倉春江氏	2名
夏休み子ども 絵手紙教室	8月8日	はがきとエコバックに絵手紙を作成 講師：向井艶子氏	1名
親子ベビーマッサージ教室	9月11日	親子で体験 講師：篠宮方美氏	6名
知ってよかった ママの救急法	10月7日	乳幼児のケガや誤飲などの手当ての仕方実技指導 講師：市原市中央消防署員	10名
世代間交流事業	10月30日 11月6日 12月18日	オカリナ演奏 ボランティアによる読み聞かせ ボランティアによるエプロンシアター	12名 10名 17名

成 果	新型コロナウイルスの影響により利用人数などに制限を加えて事業を実施し、幼児・児童及び保護者に安心して参加できる児童館事業の提供ができた。また、子育て支援を必要とする保護者に事業参加を通じて悩み事など聴き、適切な助言等を行うことで子育て支援につなげることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響による休館や利用制限が行われ、利用者が大幅に減少した。また、地域の児童の減少傾向が続いていることから創意工夫を凝らした事業を新たに発掘し、子育て支援世代がより身近に感じる魅力ある児童館へ変化するための取り組みを進めて行くことで、利用促進につなげて行く。

④ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	R1年度	増減
研修室	0	0	212	551	290	294	278	214	251	15	0	112	2,217	4,837	△ 2,620
ブレイルーム	0	0	74	245	228	313	311	261	306	33	0	68	1,839	5,282	△ 3,443
障がい者談話室	0	0	74	245	228	313	311	261	306	33	0	68	1,839	5,282	△ 3,443
療育相談室	0	0	9	4	65	4	19	24	45	17	0	4	191	643	△ 452
合 計	0	0	369	1,045	811	924	919	760	908	98	0	252	6,086	16,044	△ 9,958

【※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。】

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
ボランティアルーム	0	0	72	254	226	269	200	293	377	45	65	16	1,817	2,255	△ 438
調理実習室	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	440	△ 434
多目的室	0	0	207	522	518	834	775	914	1,059	46	0	172	5,047	10,637	△ 5,590
創作活動室	0	0	3	121	108	185	188	216	117	0	0	0	938	1,316	△ 378
会議室②	0	0	56	252	211	283	293	326	204	49	65	12	1,751	2,032	△ 281
合計	0	0	338	1,149	1,063	1,571	1,456	1,755	1,757	140	130	200	9,559	16,680	△ 7,121

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため、令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。】

ただし、3歳児健診、特定保健指導は開室し実施された。】

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
子育て支援事業 (子育てサロン)	9月6日 11月6日 11月12日 12月6日	市内在住の就学前の児童を対象に、子育てしている保護者やそのお子さまが同じような仲間と交流できる憩いの場を設け、親子のふれあいなど、地域福祉の推進を図った。(児童館と共催) 講師 森澤 美津紀 氏(ベビーマッサージ) 蔭山 陽子 氏(親子体操) 加藤 千春 氏(人形劇) 児童館(親子うきうきお話し会)	58名
なのはなフェスタ	7月26日	地域住民の交流と当館の利用拡大を目指し、各センターと地域の関係団体との連携によりイベントを行い様々な世代が交流し、またボランティアとして参画していただくことで、地域の担い手として活躍できる場(居場所)づくりを目指すことを目的に計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
ふれあいサロン事業	10月20日 12月14日 1月12日 2月9日	一人暮らし高齢者や介護に不安を抱える方などの地域での孤立を防ぎ、いきいきと安心した生活が送れるよう、交流やふれあいの場を目的としたサロンを実施した。 講師:中村 佳代 氏 協力団体:市原市地域包括支援センター トータス 市原市地域包括支援センター ひまわり 【 ※ 1、2月は新型コロナウイルスの影響による休館のため中止 】	55名
地域交流事業 (歌声喫茶)	5月13日 9月24日 12月9日	生演奏による音楽を通じて参加者全員が一緒に歌う(マスク着用による歌唱)ことにより、相互のふれあいや交流を図った。 協力団体:チャーリーウクレレクラブ アコーデオンいちほら 【 ※ 5月は新型コロナウイルスの影響による休館のため中止 】	69名
世代間交流事業 (昔あそび)	7月26日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的として計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	0名
障がい者交流事業 (ボッチャ)	2月	障がいのある方が自らを理解してもらうことにより、障がい者同士の交流やボランティアの方々や地域住民とのこころのふれあいを目的として計画した。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	0名

成 果	幅広い年代の住民に対し、様々な形で交流の場・悩みや不安の解消へつなげる機会を設けることで多くの方に参加いただくことができた。また、地域福祉関係等各種団体と連携して取り組めたことで関係強化につながり、当館に寄せられた相談等に対して適切な支援につなぐことができた。
課題・方向性	2度の緊急事態宣言発令に伴う休館により全体的に利用者数が減少しているが、今後も感染予防を徹底し安全に利用いただけるよう努める。また、利用者アンケートの結果を反映させた事業の展開を図るとともに、市社協のホームページやSNS、広報紙等を活用し、事業の見える化・見せる化の促進を図りつつ利用拡大につなげていく。

② 中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
健康増進施設	0	0	1,131	1,834	1,762	1,786	1,936	1,604	1,363	189	0	403	12,008	30,390	△ 18,382

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。 】

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
水中ウォーキング	最終週月曜日 年14回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、安全かつ効果的な水中ウォーキングを学ぶとともに、健康で明るく活力に満ちたまちづくりの推進を図ることを目的に実施した。 ・アクアビクス・アクアウォーキング 【 ※ 4、5、6、1、2月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	130名
月例講習会	毎月1回 (月曜日) 12回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、介護予防と生活習慣の改善及び健康で明るく活力に満ちたまちづくりの推進を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	76名
安全講習会	毎週3回(火・木・土曜日) 年25回	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。 【 ※ 4、5、6、1、2月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	9名
簡単ストレッチ教室	週3回(月・水・金曜日) 年80回	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ 【 ※ 4、5、6、1、2月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	499名

成 果	スタッフによる適切な指導や助言により安全かつ効果的な運動が習慣化し、利用者の健康増進と健康意識の向上につながった。
課題・方向性	2度の緊急事態宣言発令に伴う休館により全体的に利用者数は減少しているが、自粛生活により低下した筋力の増強を図るプログラムを企画するなど利用者の健康増進を目指していく。また、市の広報や地域新聞、市社協のホームページ等を活用し、市民への積極的なPR活動を継続することで事業の見える化・見せる化の促進を図っていく。

③ 老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
大広間(団体)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	△ 50
大広間(個人)	0	30	357	405	392	374	397	329	336	54	0	104	2,778	4,214	△ 1,436
和室	0	0	0	110	70	60	8	187	149	45	65	0	694	128	566
合計	0	30	357	515	462	434	405	516	485	99	65	104	3,472	4,392	△ 920

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため、令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。 】

ただし、3歳児健診、特定保健指導は開室し実施された。 】

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康体操教室	7月～12月 (全10回)	高齢者の健康づくりを目的として、健康体操教室を実施した。 講師：山口 紀美代 氏	155名
ヨガ教室① 「初級」	9月～10月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	178名
ヨガ教室② 「中級」	1月～2月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を計画した。 講師：古川 佳子 氏 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
ハーモニカ教室	9月～11月 (全8回)	ハーモニカを通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：高松 洋子 氏	78名
エンジョイ・ボール・ エクササイズ	1月～2月 (全5回)	ボールエクササイズという運動を通して、交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：根本 壽美子 氏 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
太極拳教室	2月～3月 (全4回)	太極拳という運動を通して交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
太巻き寿司教室	11月24日 1月26日 (全2回)	巻き寿司という料理を通して、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：小出 一子 氏 【 ※ 1月は新型コロナウイルスの影響により中止 】	6名
健康教室① 「講話」	1月18日	高齢者を対象に「栄養と介護予防」の講話を計画した。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
健康教室② 料理教室	2月	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—
健康教室③ 料理教室	3月	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏 【 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止 】	—

成 果	感染予防のため定員を減らして事業を実施したが、多くの方から申し込みや問合せがあった。健康や生きがいづくりに対する市民の意識の高さが窺えるとともにニーズに即した事業を企画することができたといえる。
課題・方向性	感染を警戒して利用を控えている方もいるため、引き続き感染予防対策をしっかりと行い安全に利用いただけるよう管理運営を行う。利用者アンケートの結果から利用者ニーズを把握し、主催事業への参加者増加に努めていく。

④ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
児 童	0	0	51	136	143	139	97	103	74	5	0	12	760	3,546	△ 2,786
保護者	0	0	52	121	108	131	89	88	72	5	0	11	677	3,574	△ 2,897
合 計	0	0	103	257	251	270	186	191	146	10	0	23	1,437	7,120	△ 5,683

【 ※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため、令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。
ただし、3歳児健診、特定保健指導は開室し実施された。 】

イ) 子育て支援事業

a) あかちゃんクラブ『ほっぷ』 「毎週金曜日」

3ヶ月から1歳頃の乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
参加者	0	0	0	26	35	41	56	48	40	10	0	4	260	1022	△762

b) ちびっこクラブ『すてっぷ』 「毎週水曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
参加者	0	0	0	61	40	67	17	26	27	0	0	12	250	1,037	△787

c) 親子クラブ『じゃんぷ』 「毎週土曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
参加者	0	0	0	29	13	9	22	17	11	0	0	2	103	829	△726

ウ) 定期企画事業『わくわくひろば』 工作、おはなし会、ゲームなど 「月3回 日曜日」

児童に工作や読み聞かせなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を養うことを目的として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
参加者	0	0	0	19	15	2	9	7	10	0	0	0	62	614	△552

エ) 図書貸出状況

児童の情操を豊かにする紙芝居や図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
登録者	0	0	2	9	14	2	7	4	4	0	0	0	42	93	△51
貸出(冊)	0	0	22	87	105	78	107	109	28	0	0	6	542	2,464	△1922

オ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
子どもボランティア育成支援事業	8月30日 9月6日	小中学生を対象に、ボランティア育成を目的として、ボランティア体験活動を実施した。「親子うきうき☆おはなし会」において、小道具の作成や人形劇・手あそびの発表を行った。	4名
自然体験活動事業 「なのはな探検隊」	9月27日 10月18日	小中学生が自然に親しむことにより、自然を大切にし、情操を豊かにすることを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏	16名
なのはなシアター 「親子うきうき☆おはなし会」 「親子うきうき☆シアター」	9月6日 12月6日	児童自ら体験することにより、豊かな情操と協調性等を育むことを目的として実施した。 ・子どもボランティアと職員による人形劇上演 ・「ぷろぺら雑技団」による人形劇上演	15名 19名
親子参加型講習会 「乳幼児の為に救急法」	9月11日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：市原市南総消防署	14名
世代間交流事業 「昔あそび」	7月28日 3月7日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的とする。 協力団体：牛久小学校区小域福祉ネットワーク いちばらシルバー友の会 【※3月は新型コロナウイルスの影響により中止】	—

なのはな実験教室	8月8日	児童が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として、科学遊びや工作を実施した。 講師：柳池 繁 氏	7名
ベビーマッサージ	11月6日	幼児を持つ母親を対象に、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、ベビーマッサージを実施した。 講師：森澤 美津紀 氏	16名
親子であそぼう (親子体操)	11月12日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組む、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子 氏	8名
季節のイベント	7月～12月 (14回)	児童自ら体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことを目的として、季節感のある工作やおはなし会を実施した。	92名
親子の料理教室	2月7日	親子で料理を楽しむことによって子どもの豊かな情操を育むことを目的として計画した。 講師：吉野 知子 氏 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—

成 果	新型コロナウイルスの影響により、イベント参加人数や利用時間に制限があったが、来館者からは安心して遊べる居場所として喜ばれた。
課題・方向性	コロナ禍において、公園や園庭開放など屋外で遊ぶ児童が多くなった為、来館者の減少傾向が見られた。屋内でも安心して楽しく利用できるような工夫をし、積極的に周知していく必要がある。

⑤ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R1年度	増減
障がい者交流室	0	0	246	608	542	688	597	666	482	52	0	133	4,014	1,668	2,346
会議室①	0	0	95	294	288	290	253	360	361	52	71	43	2,107	3,732	△ 1,625
合計	0	0	341	902	830	978	850	1,026	843	104	71	176	6,121	5,400	721

【※ 緊急事態宣言発出に伴う公共施設の休止のため、令和2年4月1日～5月27日、令和3年1月9日～3月21日まで休館とした。
ただし、特定保健指導は開室し実施された。】